恵敬院

内閣文庫
和書 類
八八七三 號
一一 冊
一七二 函
一四 架

拾遺
全五冊之内

和書門 類
八八七三 號
一八九 函
五 架
一一 冊
116

内閣文庫	
番號	和 8873
冊數	11 (9)
函號	172 178

拾遺 都名所圖會

拾二
尾
左青龍

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

左院藏書
制度取調
元老院圖書記
日本政府圖書

拾遺都名所圖會巻之二目録

左青龍尾

毘沙門堂
鏡山
光秀塚
将軍塚
堤河
鼠森
親鸞屋舗
姫ケ池
聖護院
粟田社舊跡（同御旅所）
吉備公像
袖競
安祥寺
小鍛冶水
青蓮院
稜殿辻子
風羅坊舊趾
堀出觀音
秋葉祠
熊野權現
左府墳（一名 櫻塚）
明星水
袖河原
松坂
花頂山旧趾
耕雲庵旧跡
法勝寺舊蹟
満願寺
東天王
御所稲荷
新羅社
善正寺
真如堂稲荷
明王寺
粟田神明宮（大日山 粟岩倉）
比丘尼坂
在原行平亭
塔壇
俊寛屋舗
五大堂古跡
西教寺薮
蓼倉薬師
願成寺
鳥居大路
お石机
円輪（円臨川 弥勒石佛）
迎稱寺

国立公文書館
National Archives of Japan

芝薬師
神楽岡
春日社（若宮 勅使塚）
吉田泉殿
法性寺
青龍寺
二軀石佛
砂川（柳ケ辻）
龍王宮
千石岩
十禪師社
愛宕墓
中將實方家

極樂寺
智福院
神樂岡神
業平朝臣廟
正榮寺
沸々
陽成院陵
頼政山莊
樓門瀧
如意城趾
中尾山
後愛宕墓
北白川天滿宮

東北院
西天王
兼倶祠
一本松二本松
長德院
地藏堂
小督局家
霊鑑寺
池地藏
大豐社
白河
貞信公亭
照高院

元真如堂（醍醐水）
木瓜祠
新長谷寺
身隱森
武藏寺
後一條院陵
三本木
如意寺（霊木杉 鹿宮 閼伽井）
葵谷
辨慶屋鋪
白河陵
公任卿山莊
心性寺

瓜生山
金福寺
圓光寺（御宮）
狸谷不動
月輪寺跡
權中納言敦忠山莊
守禪庵
赤宮
小野毛人墓
觀音石
矢背天滿宮
波那志里社
惟喬親王舊蹟

白川石佛
芭蕉庵（碑銘）
葉山觀音（檜垣塔 坐禪石）
白鳥越
雲母坂
林丘寺（修学寺村）
大納言手名卿旧蹟
寶幢寺
御蔭山
神子淵
紀貫之家
大原上野
小野神社

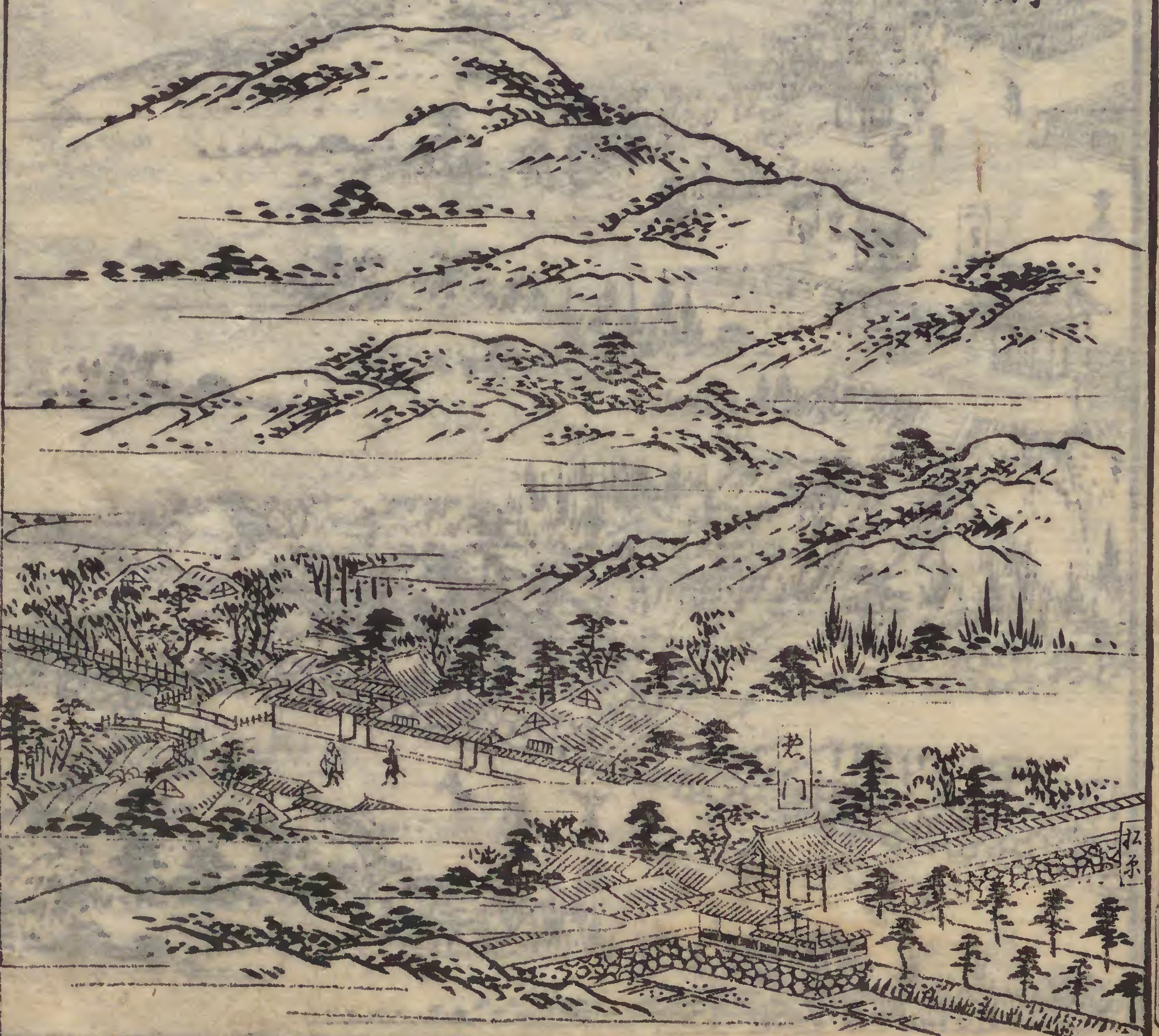
頑仙祠（丈山碑銘）
隱松
一乘寺天滿宮
花之谷
不動堂（瀧 蛇ケ池 水飲）
道入寺
山端
蓮華寺
甲淵
住吉石
御蔭社（同例祭）
十禪寺
敏行朝臣家

舞樂寺天王
比良木社
曼珠院
鷺森（影顯天王）
叡山雲母谷
禪華庵
理覚院
高野社
千束碊
矢瀬川
炭竈里
攝取院
勝手社

国立公文書館
National Archives of Japan

山科
毘沙門堂御門前

毘沙門堂は伝教大師の開基にして初は平安城今出川の北にあり今塔之墳といふも叙前編にくはしくへり



西方院
萱穂橋
羅漢橋
鉄盤石
静原峠

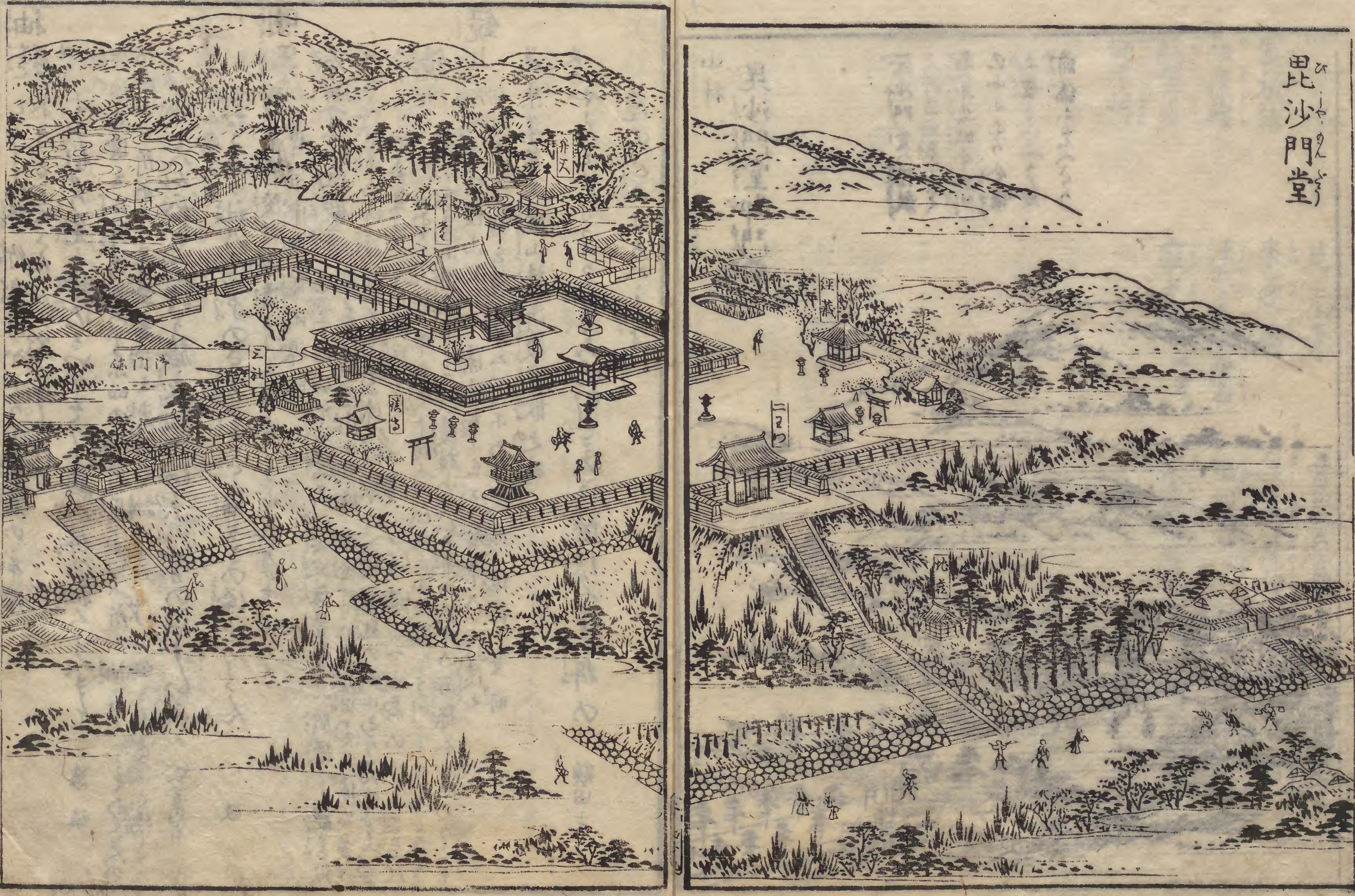
真光寺
來迎橋
法然上人腰掛石
寂光院 補遺

賣炭翁墓
後鳥羽院陵
姫洞 大原村
火壺雨壺風壺

小野氷室
獅子石
良暹法師山荘
龍華越

国立公文書館
National Archives of Japan

毘沙門堂（びしやもんどう）


弁天
本堂
三社
御門跡
鎮守
経蔵
二王門
地蔵

袖藏 むかし山科竹鼻乃かたはらに藏屋の市場ありといへり今定かならす

拾玉
あやしきる足も世渡るいとなみし其山科の袖くらへまて　慈鎮

宇治拾遺云山科のあたりに四の宮川原といふ所に袖くらへといふあき人のあつまる所あり又盛衰記云東路や袖くらへ淺も賤しも遊君遊女と續くら

夫木
旅人をわけぞ立まる旅衣袖のにほひの京乃旁の後よしらす　衣笠内府

和哥深山暁子ゐる
ねさめする袖乃にほひのさまよふる帰るさの藤とふらん　心敬

明王寺 山科陵村街道より五町ばかり小藪乃中にあり

禅宗中興龍淵禅師

本尊十一面觀音 安置す慈覺大師の作立像三尺脇士文殊普賢又脇檀に觀音像傳云天智帝の御冠に納め給ひし尊像なりとぞ毎歳元三に御戸開あり 弁財天祠 佛殿の側にあり天降の像安置す

鏡池 寺内にあり天智帝登天し給ふ時此池におゐて玉體をうつし給へるとぞ 靈水寒暑に増減なし又此陵村に天智帝の臣下の苗孫今猶ありとぞ

鏡山 明王寺の後山をいふ 藻塩草云天智帝乃御陵之 詞林采葉抄云鏡山ハ三所にあり山城近江豊前

萬葉集第二 従山科御陵退散之時

長哥
やすみしゝわか大きみのかしこきや御陵仕ふる山科の鏡の山によるハもよ　額田王

安祥寺 高野堂と号す由緒前編に出す

伊勢物語 女御高子とまうしけるを安祥寺にて後のわざしけるに人々さゝけものたてまつりけるを

後撰集
山のみなうつりて今日にあふ事ハ春の別をとふとなるべし　業平

續後撰
安祥寺に閑居して春をおくり侍りける時
老の身に世のうきこともわすれくさむへそゝ花とそよそなりけり　法印觀[illegible]

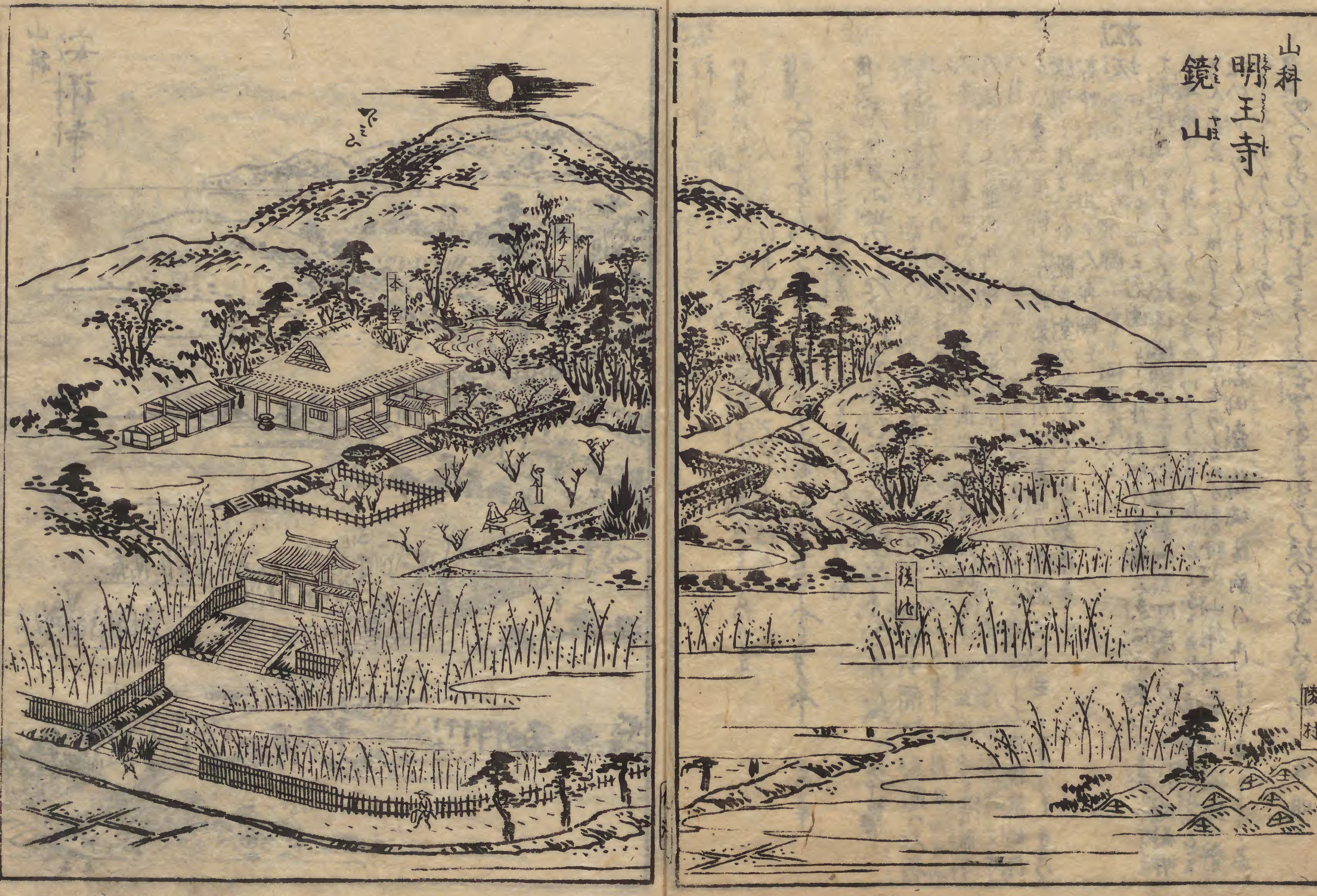
青龍權現 當寺の鎭守なり眞言傳云當山の開祖少僧都惠運ハ大唐の商客李處人等が船に乗て承和九年八月廿四日に入唐す是唐土の會昌二年也武宗佛法を滅せし時に傳つく青龍寺乃鎭守青龍の御躰を取奉て歸朝す仁明帝の御宇嘉祥元年八月に太皇大后追福乃爲に安祥上下兩寺を建立して御願を始行を以寺ハ唐朝より将来せる所の青龍乃御體を安置しまつりて寺乃鎭守とす今觀音堂の西の傍にあり文禄年中高野山應其上人再興す

松坂 粟田口より日の岡にのぼる坂路なり

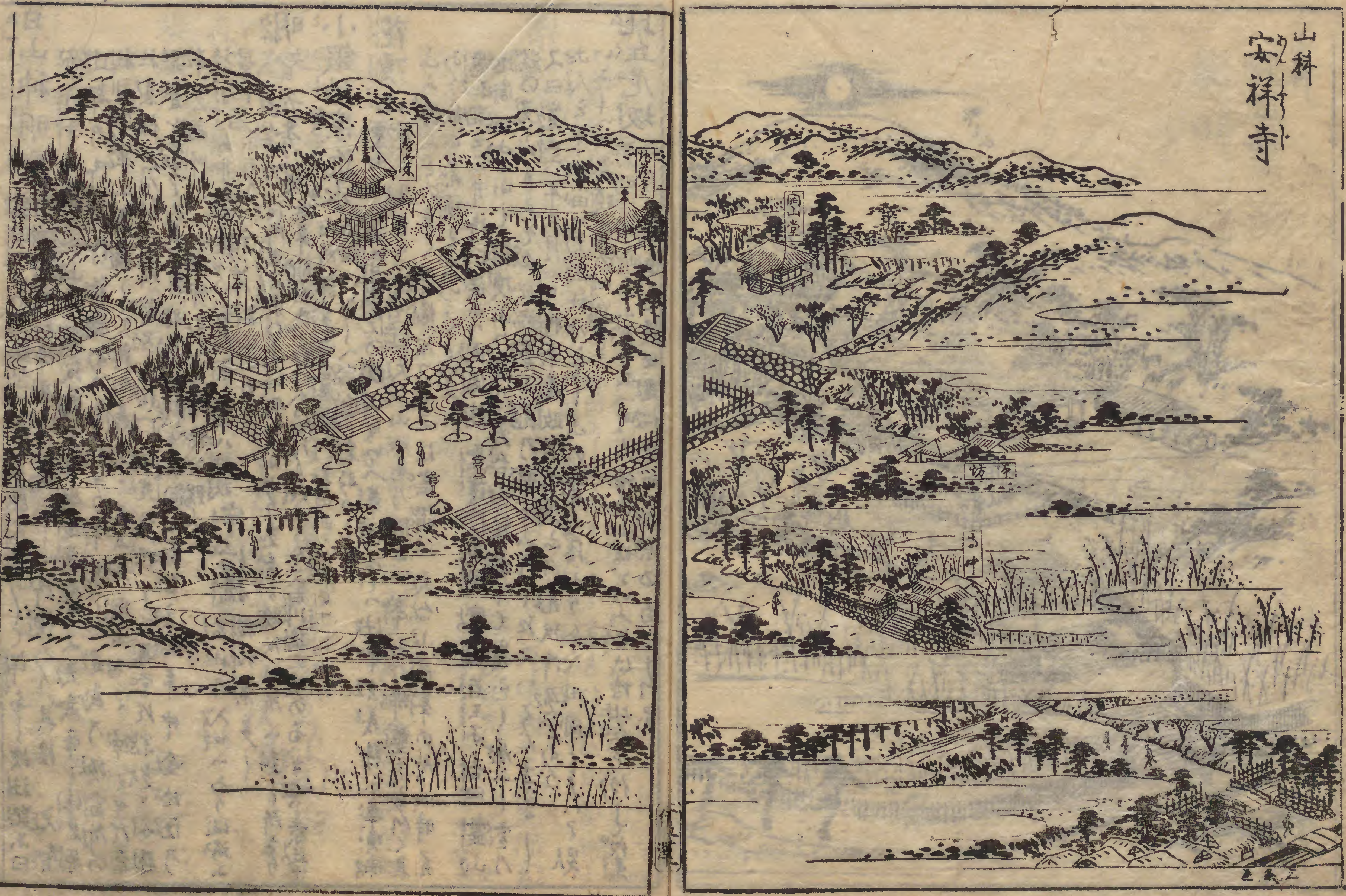
日吉社行幸記云元德二年二月京都乃貴賤三條河原粟田口邊にて車桟敷をかまへあり松坂檜岡とさえ大臣墓四宮河原まてありけれは鴨長明か述懐せし外山なるハこのわたりまての山といふ爰に遍昭僧正のもとへまかりて花山もとかりてけるにそこにてある若狭山科如意山安祥寺松の戸ふりそまかくし岩田森勝坂踏餉乃御まうてもかくあるとなん

道の記
かへりまさん程をちきりし人志るやこよひ来まし坂の松かへりまして　長明

山科 明王寺（みやうわうじ） 鏡山（かゞみやま）


かゞみ山
弁天
本堂
後池
陵村

山科安祥寺（あんしやうじ）



大日如来
地蔵堂
本堂
青龍権現
八まん
開山堂
本坊
ゐ中
三条道

日山神明宮 粟田口にあり鎮坐の義年歴久遠にして詳ならず洛社記に曰 神功皇后三韓退治の祈として御禊あり其後 天智帝行幸ありて日山の號を賜ひて宮殿造営ありて又 天武帝も清見原遷都の御時御祈願あらせしより年累て建武の頃當所の社司官軍に荷擔して新田義貞と共に北國に下りて歸國せず當社衰微に及びし所野呂左衛門宗光信仰して再營し宗光が子孫靈夢を蒙りてこれより野呂氏代々社司を勤む元和年中金地院の本光國師に 台命ありて境地を賜ふ

影向石 鳥井の左にあり

神木 南天茶山花八股枝當山にあり

宇治橋 當社の入口にあり坂路に櫻紅葉多し

明智光秀塚 同所黒谷道の東三町計にあり光秀が頭を此所に埋し所なり近年明田氏といふ人此地に住し今又白川橋三條の南へ古墳と共に遷る

小鍛冶宗近水 同所佛光寺墓所門の西石垣の下にあり此地いにしへ宗近が宅なりしとぞ

花頂山 粟田山の西青蓮院の後をいふ又華頂と云へは法華玄義科に華頂佛隴と云り補注曰天台山西南の隅に一峯あり佛隴と名く其山に遊ぶもの多く佛像をなす又注書讃曰天台山最峯の所四時花あり故に花頂と名づくといへり應仁記に三井寺門徒には圓滿院聖護院花頂實相若王子吉田靈山近衛坂中にも花頂山は唐の天台山に擬して嶺にも尾にも雲の端の曙うかのまそ夕日の景は花の照そよしたれ又いはん方なし又曰寛正六年三月四日將軍義政公花頂山の花御遊覽あり土人云今粟田口天王社の在し山の麓に池あり今は田圃となれり是いにしへの花頂院の舊跡といへり

比丘尼坂 粟田口神明山に至る西一町計大路の小坂といふ古此地比丘尼住して往来の人に勧進す後世建仁寺町松原の南にうつす

將軍塚 粟田花頂山の峯にあり塚上凹にして老松四五株あり 桓武帝の御時平安城久延すべきとて土にて八尺の人形を作り鐵の鎧甲を着せ弓箭を持せて當山の峯に西向にして埋まれしなり をさまれし天下に災害あらん時は塚かならず鳴動をなす[illegible]神と

青蓮院 粟田御所御門跡領の天台宗にして始祖は傳教大師中興は大僧正行玄和尚なり此人は大職冠十三世の嫡孫京極攝政師實公の息男也山門四十八世（保延四年十月廿九日座主に任し治山十七年也第二覺快法親王）第三大僧正慈鎮それより代々法親王御治職として山門の座主たり

耕雲草庵 花頂山の奥に舊趾あり耕雲は權大納言右大將（南朝補任）藤原長親卿法名は明魏又耕雲と号す

耕雲遺方云

此十とせあまり白川の東花頂山の奥に幻質をかくして庵をむすび松石にこゝろをなしてありつる次　應永十五年

在原行平卿亭 鴨川のかたはら今定かならず三代實録にみえたり

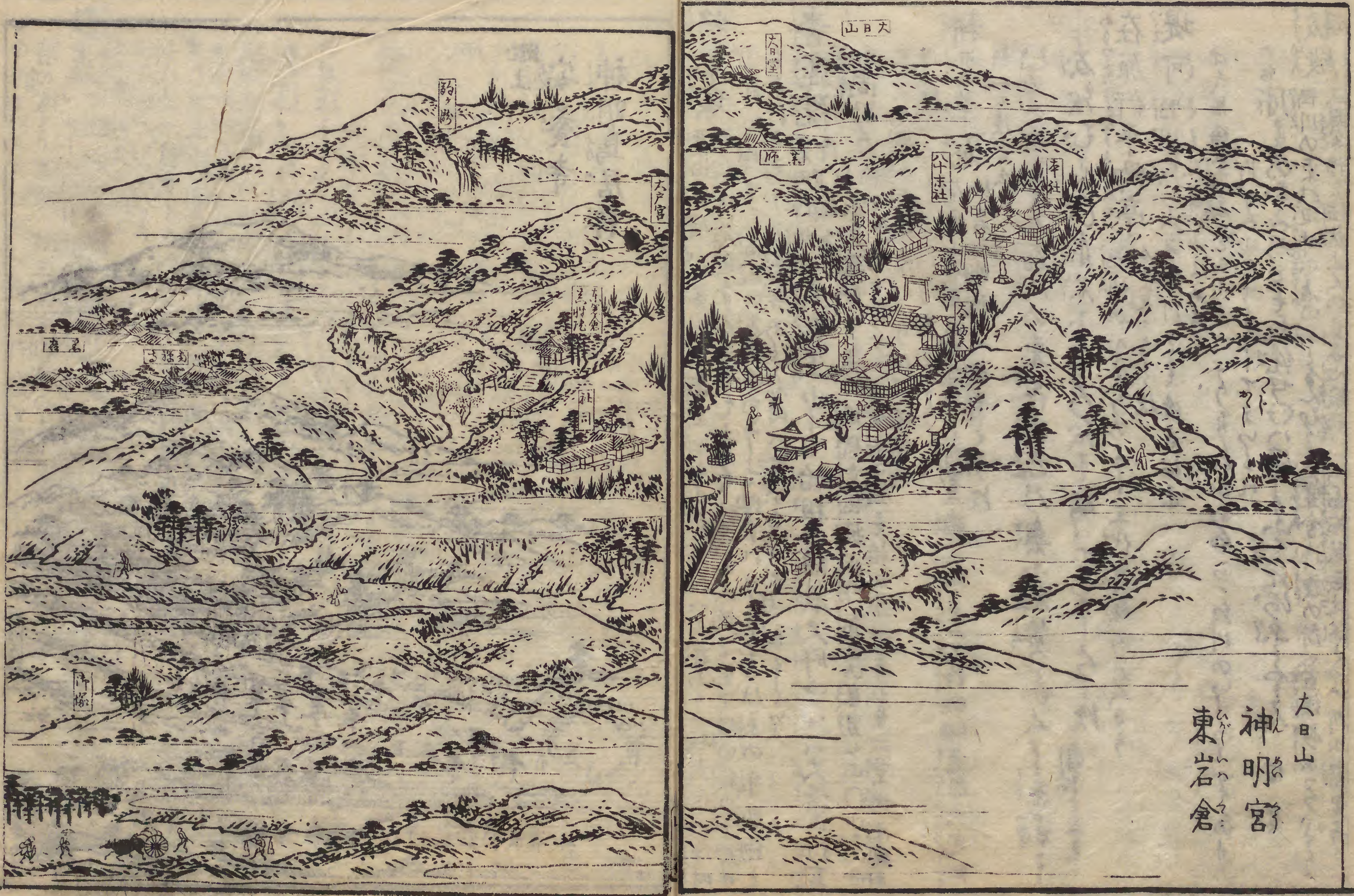
堤河 鴨川の又の名堤川とも近き江に

源氏物語常夏巻云かゝる川よりあまれる[illegible]川のほとりにすみ[illegible]

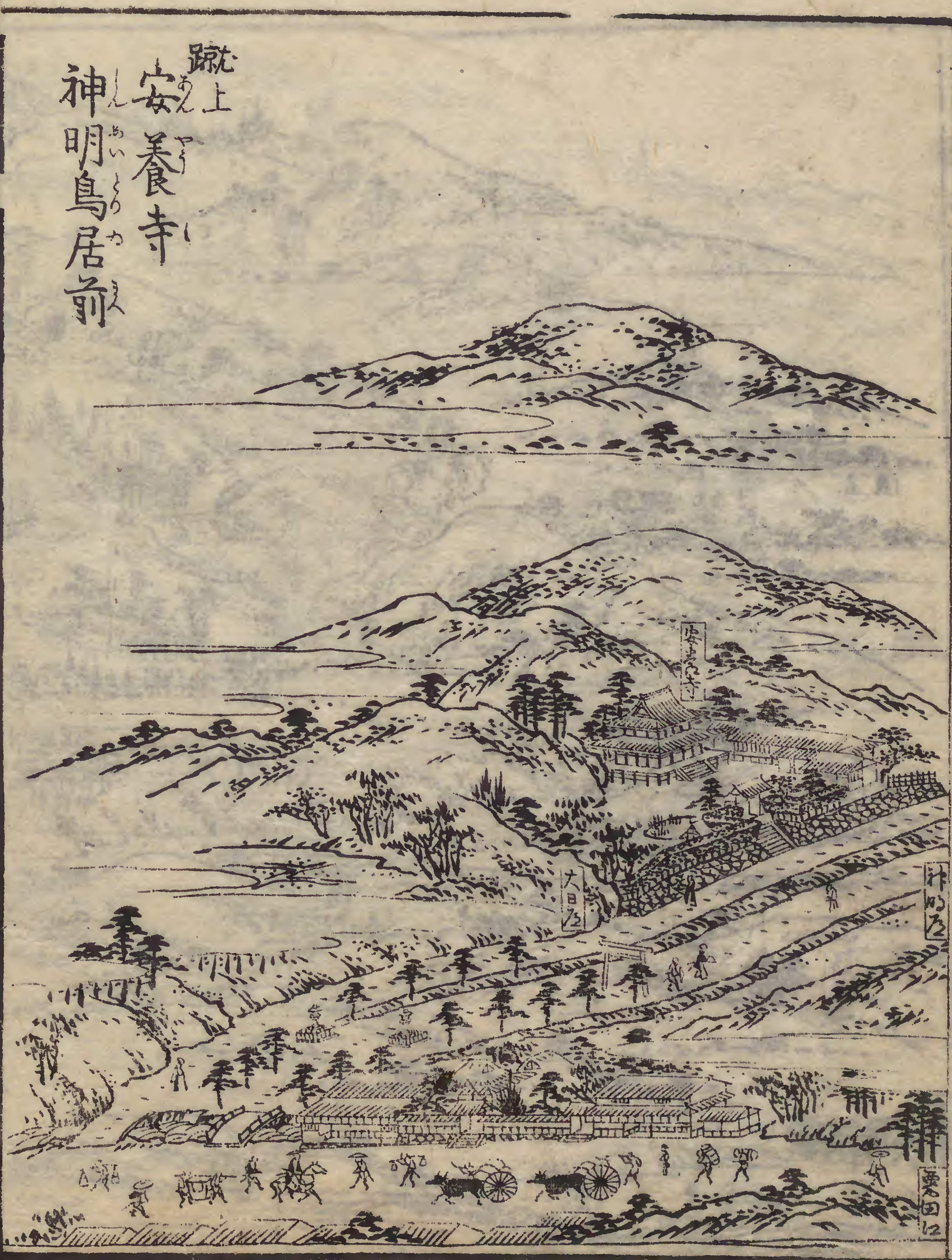
六帖

川とのみ世乃うさをそ絶せむは[illegible]　信實

秡殿 鴨川の東九辺姉小路の末にあり大嘗會御禊の所也百練抄にみえたり又黒谷の法然上人の弟子忠[illegible]秡殿辻子といふ所に[illegible]


大日山
大日堂
薬師
八十末社
本社
八股杉
大宮坊
外宮
つゝじ
かし
天戸宮
鶴ヶ瀧
社司
南禅寺
御陵

大日山
神明宮
東岩倉



法勝寺舊蹟 下岡崎にあり六勝寺の一箇にしていにしへ洛東大厦なり（金堂 講堂 阿弥陀堂 五大堂 法華堂 薬師堂 九重塔 八角堂 常行堂 曼陀羅堂 不動堂 山王社 八十六間廻廊 南大門 西門 北門等）巍々として教をひろめ給ふ拾芥抄曰承暦元年十二月十八日供養あり白川天皇行幸し給ふ中興の祖ハ慈威上人にして天台浄土宗を兼学をし坂本西教寺を草創す當寺應仁にほろびて後金堂本尊釈迦佛ハ西教寺にうつり

塔壇 （當村乃西に一町計にあり 九重の塔の跡なり）

五大堂跡 （塔の壇西二十間計 黒谷道の東側にあり）方十間餘の芝生ありて中に樗の木三株あり土人三本木と称して此辺ハ法堂乃旧跡にして時々田畑より佛器金具杯の品を堀出せり

俊寛屋敷 （同村東の藪乃中にあり法勝寺修行俊寛僧都の住しあとゝ 今坂本西教寺の持地となる中に荒神祠あり古乃鎮守なり）

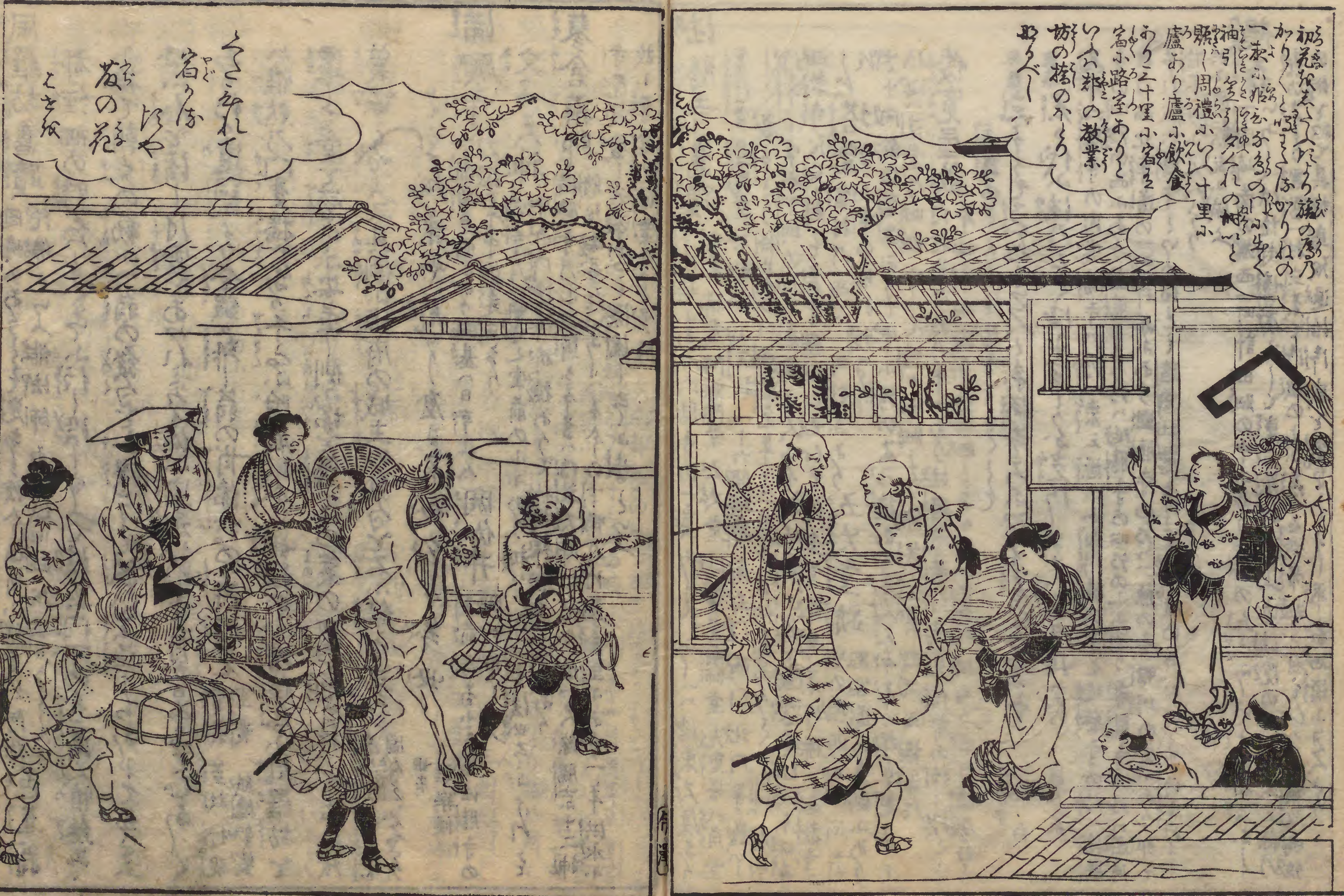
糸桜のさかりに法勝寺をとぶらひて　法性寺関白

風雅　之よそにてハちると見へし糸桜きてみるにつゝる花の木のもと

家集　君か代に法乃さくらを志りそめし光けしそふ花乃月かけ　為家

其外六勝寺の内成勝寺乃跡ハ東二條の小白川橋の東之延勝寺の跡ハ法勝寺の旧跡の西にあり圓勝寺乃跡ハ延勝寺の旧跡の北にあり尊勝寺の跡ハ岡崎村乃西北車道の一町計西にあり最勝寺の跡ハ二條の南鴨川の東にあり都て是れを六勝寺といふ何れも諸堂壮麗にて慶讃の日ハ帝行幸ありし拾芥抄に見へたり共に應仁の亂に滅ふ

鵺森 下岡崎南の端西一町計田畑の中にあり一堆の丘山にして上に樹木ありいにしへ此地封疆廣くして東三條杜と云近衛院の御時東三條乃森の方より黒雲一村立来て御殿の上に覆へる必帝おびえさせ給ふ依て頼政鳴弦の術を以て其怪鳥を退治す叡感を蒙りしよし平家物語に見へたり



初花をさゝ入たより旅の塵乃かゝりくし嗟まゝ於わりれの一夜に旅客多の門に歩く袖引室引夕ぐれの塒にと驛し周禮にいはく十里に廬あり廬に飲食あり三十里に宿あり宿に路室ありといへる都の教業坊の構のかゝりならべし

くたびれて
宿かる比や
藤の花
はせを

風羅坊舊蹟（岡崎にありしと定ならず今此所に蝶夢幻阿弥陀佛といへる法師あり此旧趾に駐るゝか）芭蕉翁都鄙徊の時しばらくこゝに行没しすて後其門下の高落人惟然こゝに棲て朝夕の勤には翁の發句をとなへ後にして諷ひ木魚うちならして送りけるは心を清し月雪をあはれみける終に宝永八の年二月九日むなしくなりける遺詞によりて錢貨を辨し翁の肖像六ツの品形見（菅蓑　笠杖　行硯　空嚢　紙衣　袈裟）は惟然の門弟播广なる千山に附属して今は姫路の小増位山に風羅坊と遷して堂を營て安置し側に塚を築て其蓑の塵を納て神としこれを蓑塚となづく又其側に姫府の城主の發句を石に鐫て立らる（姿は須广明石の圖今にありとそ）

たち花菓や風より座まそ母名も象世　姫府　雅樂候

滿願寺（下岡崎東側にあり開基八日亨上人）**閼伽井**（堂前乃南にあり是法勝寺の閼伽井としてふりし後世まてにをれりと）**文子天神**（當寺乃鎮守之堂前の小社にあり初は北野にありし　中將門院の祈願ありて社権拜殿等造營あり）**蓼倉薬師**（滿願寺乃小寺に隣る本尊は傳教大師の作坐像一尺餘脇士十二神將を安置さは今の下鴨乃地蓼倉里にあり一年洪水に）寺院破壊して漂流しこゝに安置すとそ故に蓼倉山出雲寺と号る

親鸞屋敷（岡崎之應寺前町今の南部第の北竹林の地なりといふし此所に）五劫庵といへりて親鸞聖人二十二歳の時元久二年四月選擇集書写しける旧蹟なり此本願寺傳記に出て上人親鸞居處として又聖護院乃山は門跡殿下の別莊乃旧地なりし田の字を月輪として此地なる所と

掘出觀音（同所乃西側にありて元禄年中北の方竹林の内古井より掘出す所之土佛なり安置あり足いふし八六勝寺の中乃伽藍なるうんか）

東天王社（同所東の端にあり祭神牛頭天王　奉麦の額正一位東天王と書れたり此地の東光寺といふあり其伽藍なり又廣峰に）諸社根元記曰祇園牛頭天王初は播广國明石浦に垂迹し次に廣峰にうつり其後北白川東光寺にうつれ

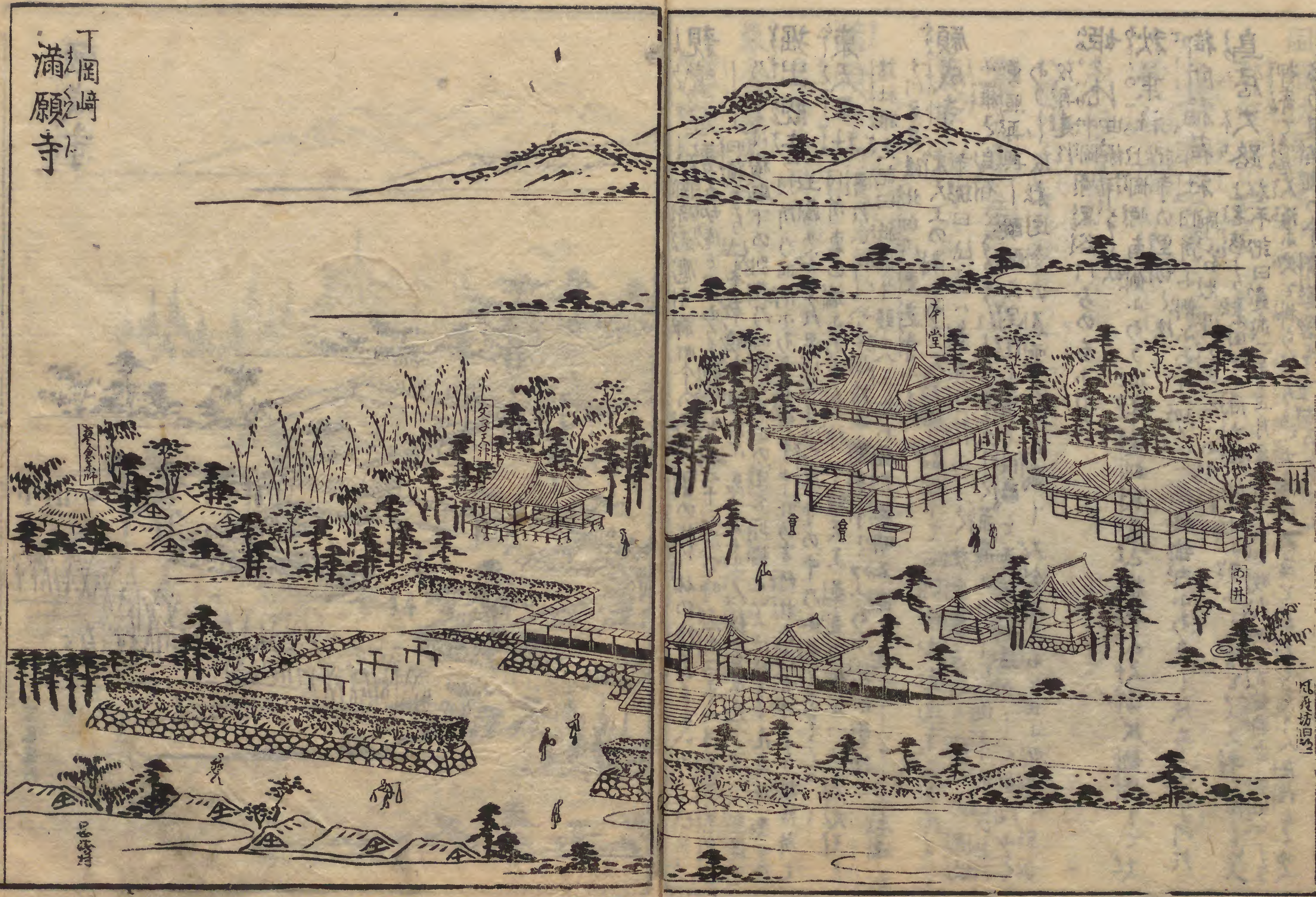
願成寺（東天王の南にあり大念佛宗にして伽藍別院寺説曰此地は舊真言院にして諸堂嚴麗なりしが應仁乃兵火に羅りて烏有となる其後久しく荒廃に及ぶ）然るに普照再興し醍醐三宝院に属し住職を普照滅後久しく無住なりしを來迎寺の慈雲上人止職し大念佛宗を世に弘通し堂舍ありし故再建れ

姫ヶ池（岡崎黒谷門前の南にあり）

秋葉社（田中縁詳ならず　上岡崎南側にあり近年遠州秋葉山権現三尺坊を勧請して大就寺の里坊とす）

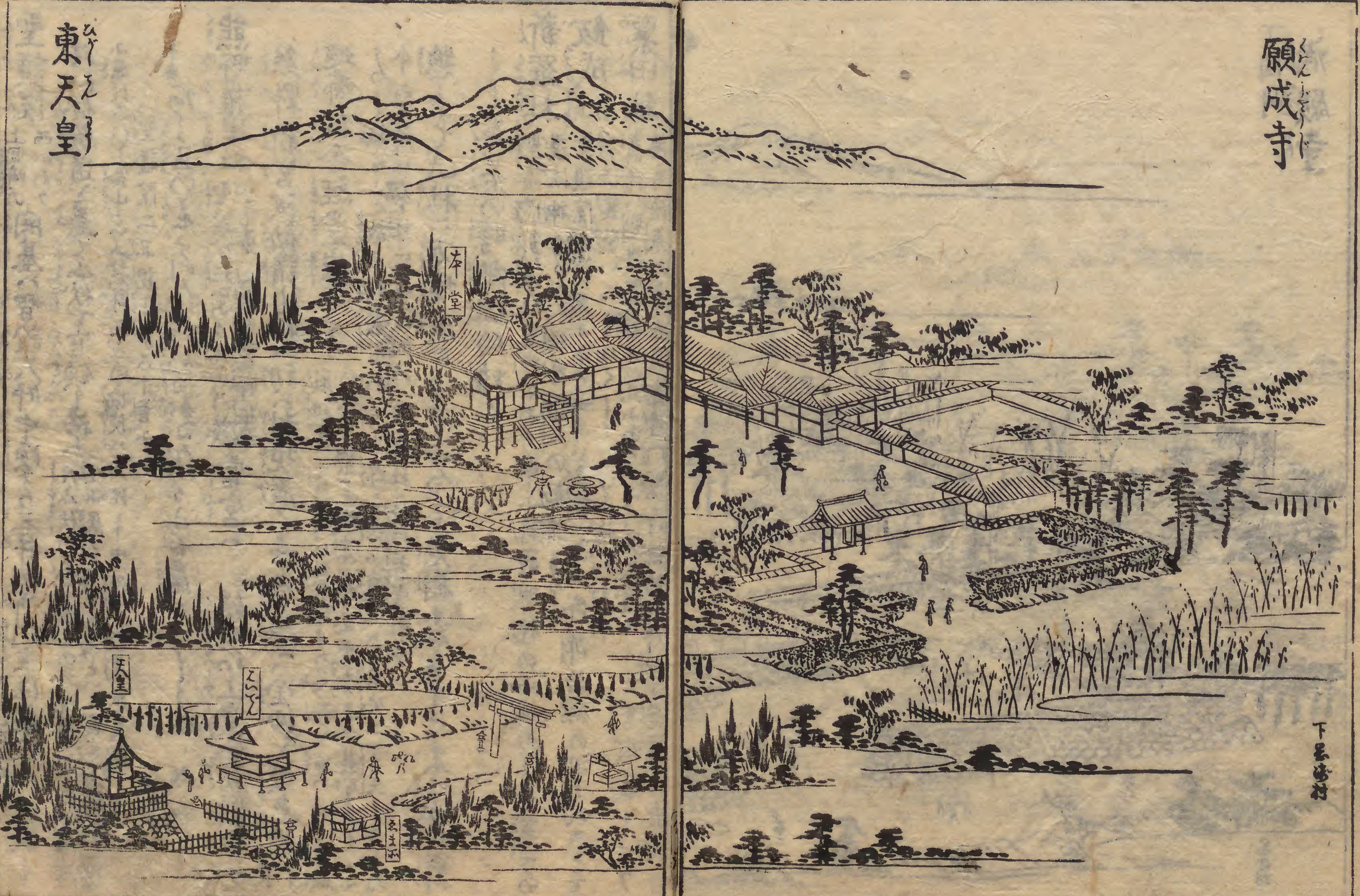
御所稲荷社（同所小側にあり初めは一條殿館内にありしを今こゝに遷れ　即ち家元川上氏法のふ居宅にあり）

鳥居大路（上岡崎より粟田口三條十禅師辻に至るは大路をいふ又車大路ともいふ　平記曰建武二年正月奥州の國司顕家卿二万餘騎にて粟田口より押寄て鳥居大路に火を掛られける古鳥居大路と家名とする人居住せしより其苗裔は今青蓮院御門跡の家臣之）


下岡崎
満願寺（まんぐわんじ）
寒念薬師
文子天神
本堂
あか井
風延坊旧跡

願成寺（くわんじやうじ）

東天皇（ひがしてんわう）


本堂
下岡崎村
天皇
えまでん
ゑまや

聖護院（上岡崎の西にあり）開基ハ智證大師中頃より三井の御門主法親王御住職し給ひ修験道を兼て山伏を官領し給ふ（凡山伏に天台真言の二流あり天台ハ當御門主に属す聖護院を本山といふ真言ハ醍醐三宝院に属す是を當山といふ熊野三山の検校ハ天治年中僧正行尊より初るとぞ）

聖護院二品親王家五十首に

草庵　何ゝ玉の甚しそれ朝日影にかゝる山や霞なりけん　頓阿

熊野権現社（聖護院社にあり鳥居の額 日本第一大霊験所熊野権現）當宮ハ後白河上皇の勅願にて熊野新宮を勧請し給ふ初ハ封境廣くおよそ宮殿にハ金沙を鏤め楼門廻廊後舎経堂巍々たり（最初建立の時ハ熊野より土砂を運びて宮殿の地を築き樹木花草に至るまで熊野よりうつし）うつし植ゑし故に新熊野新宮と称す共に應仁乃兵火に焦土となる

今ある所ハ本社　冨士浅間社　稲荷社　役行者堂あり

惣じて此社ハ方境廣かりしとぞ今ハ老樹森々として木陰蓊欝とし炎暑の時の納涼の地とす

新羅社（聖護院築垣乃東頬にあり中に新羅明神の小祠あり是三井の護法神なるゆへ増誉僧正の勧請すると）

飯成社（聖護院森の巽にあり世にお辰狐といひて御所稲荷の川上氏まもる尤霊験いちじるくしてつねに詣人多し）

粟田社（舊地ハ聖護院森の西北にありいにしへハ大厦にして宮殿巍々たり傳云治承二年正月建禮門院御懐胎の御悩に悪霊出るに依て）讃岐院の御霊を神子明王乃縛に懸て顕し崇徳天皇の追號を授け今旧地乃字をヒトク井といひて土人崇徳院と諺を唱ふるや

諸神記云

粟田宮ハ　崇徳院　宇治悪左府頼長　六條判官為義を元暦元年四月十五日勧請しありし建久四年八月十五日己酉祭を始む自今已後毎月中酉を用ゐらるべし宣旨を下されぬ内蔵寮の御幣宣命を立られ上卿民部卿経房御使内蔵助惟宗久義應永七年九月九日當社の神供御精進也　大中臣日記云　建武元年七月五日粟田社焼拂ふの所に畠中重連身命を弃て御神體并御筥を取出し奉る文和二年二月朔日御再建同六月廿日卜部兼敦承て遷宮す神主ハ隆昌重連両人更々五年宛之を補

盛衰記云

元暦元年四月十五日子時崇徳院の遷宮あり春日（丸太町）の末の河原東なり此所ハ大炊殿の跡先年の戦場也（中略）又故宇治左大臣の廟同じく東方に立

玉葉　粟田宮の歌合に寄海朝といふことを[illegible]

治まれる一枝の契りたえまなき[illegible]出る舟人　後鳥羽院

十訓抄　同じ歌合に寄名といふ[illegible]

そつさと山ゆ暑かれ乃うちも衣袖に[illegible]　但馬守家長

家集　崇徳院法楽百首歌に　子日

子の日せし昔も忘れね松山乃神や昔に[illegible]　覚孝

櫻塚 聖護院森乃西南二町計にあり是則宇治悪左府頼長の社地なり塚上に櫻を植られしハ世の人櫻塚と呼ぶ實ハ左府塚なり一年霊驗ありしとて都下乃貴賤群をなして詣を今田圃乃間に纔に遺りといへとも神威ハ新にして古今にかハらずと知らるゝ

善正寺 聖護院の東に二町にあり法華宗にして本國寺に屬す開基ハ日鋭上人本願ハ関白秀次公の母義瑞龍院日秀尼なり則秀次公追福の為に建立し給ふ秀次公乃法名を善正院殿高岸道意と号す當寺ハ山城國六條村乃上室之第四世日演上人興起を

釋迦堂 上壇乃地本堂乃西にあり本尊ハ釋迦佛金銅の坐像九寸餘延宝元年二月十三日肥前國玉名郡中村の民人靈夢を感じて漢人乃細に揚させて帝代乃靈尊にして宗徒常に詣を

◎弥勒石佛 [illegible]

月輪 聖護院の小弥勒堂の西田の字にあり是月輪兼實公の別荘旧跡之此地を記言聖人暫らく居住し給ひしよし云傳へて聖人旧跡の一員あらんか

右大臣吉備公像 黒谷觀音堂乃内に安置す衣冠黒袍を着して坐像三尺計元正帝養老丁巳年吉備公唐土に渡り靈木を得て聖武帝天平五年に帰朝して行基菩薩と志して合せ千手の像を祈めて黒谷觀音堂乃本尊とす前に像ふあくへらるゝ花乃像ハ埀木ハ以習よるうらん神吉備公ハ本朝の儒宗にして皇城に聖堂を建て先聖先師九哲乃像を作りて祭て春秋二仲釋奠乃具儀を教へ祀典の器物等嚴かに調へしむ續日本紀にみえたり又徂徠學則曰有黄備氏者出游學於中國作為和訓以教國人

明星水 黒谷塔頭榮攝院にあり名義詳ならず次

稲荷社 真如堂門の北にあり當山の鎮守と號鳥居の額日本最初稲荷大明神と書す寺説曰むかし當山の僧職三ッの峯稲荷大明神を尊信して常に詣をある夜の夢に明神現じて鈴聲山ハ清浄無垢乃霊地也速に勧請すべしと告ありて夢覺ぬ夙に記堂前を見れハ老翁一人手に寶珠を捧て曰これハ是稲荷乃神使之此宝珠を海にあらへしとの神勅ありとて授け忽ち白狐と變じ去りぬ神慮奇異なりとて急ぎ三ッの峯に詣し別當增圓に此よし語られしも前夜靈夢を感し其符合せしとて甚歡喜し則神像を寄附せし是なり故に當山乃境内に社をいとなミて佛法擁護の鎮守とすとぞ

迎稱寺 真如堂の乾にあり時宗初メハ京極一條にあり故に一條道場といふ往昔ハ天台宗中頃一遍上人の化導によりて當宗と改む

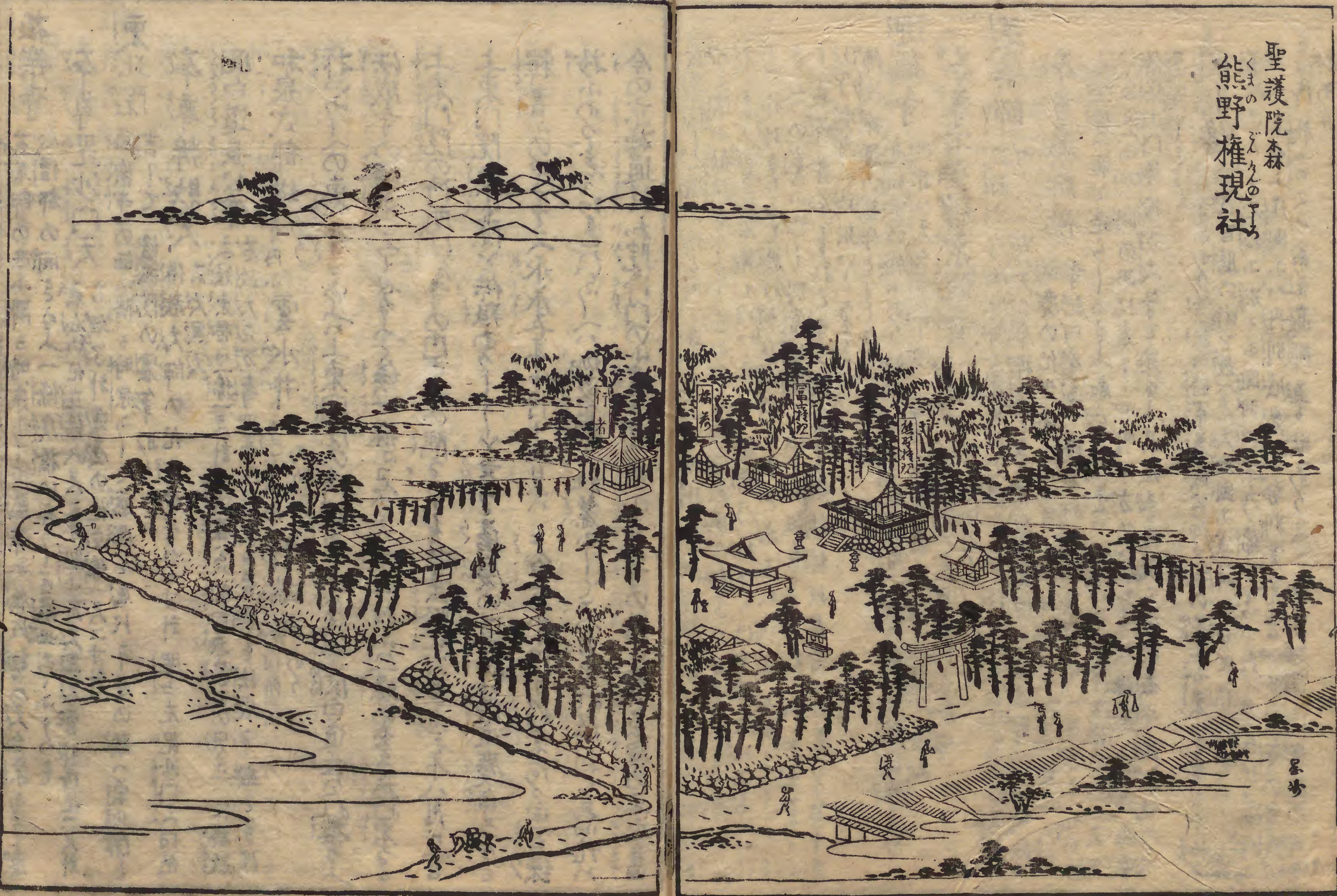
本尊不空羂索觀音 恵心の作立像三尺其外阿弥陀佛一遍上人の像あり

芝藥師 迎称寺乃西に隣る靈芝山大興寺と號す元ハ大宮五辻にあり今芝薬師町といふ古ハ天台今ハ禅宗とする東福寺の潭月寂澄禅師中興す

本尊藥師佛 運慶の作坐像二尺五寸十二神將同作立像二尺計寺記曰本尊ハ後鳥羽院勅願所佛工運慶に詔ありて坐像一軀を造らしめ給ふ叡山乃めでまらい未ハ婦人やすく産を得させられしハ二宮の為に禁闕の西北方に四町四方の地を給ひて佛殿法堂庫裏僧塔山門鐘樓方丈等を建立す其後參議從三位武藏守源朝臣頼之再興しと云

関羽像 當寺にあり寺記曰將軍尊氏公たりし夜の夢に女来て告て云今海外に百戰百勝の術を教へん大元國に軍神を求て信仰をなしと靈夢さめてとく元綸に求るに関羽將軍乃像を得て尊氏公の持績に安置しぬ庄園に丹州別波見保天竜寺小墅村等の尊氏公乃御教書又ハ家臣高師直の状あり又後鳥羽院御寄附の佛舎利あり

聖護院森
熊野（くまの）権現社（ごんげんのやしろ）


行者
稲荷
冨士権現
熊野権現

極樂寺（芝藥師の西に隣る時宗にして藤澤に屬す初めは天台宗にして慧心僧都の開き給ふ一條戻橋の邊にありしを後世こゝにうつす）

本尊毘沙門天（右慧心の作立像長尺三寸脇士左大黒天菅神御作二尺右蛭子并運慶の作立像一尺二寸計）

東北院（極樂寺の西に隣る時宗にして藤澤に屬す本堂の額は東北院と書して後西院の震筆なり）

本尊辨財天（傳教大師の作立像二尺二寸計脇士左毘沙門天同作右大黒天）

關白道長公像（衣冠束帶坐像一尺計。道長公は關白兼家公の男正一位攝政太政大臣万壽四年十二月四日薨御を法成寺殿と号す）

和泉式部塔（寺内にあり）雲水井（堂の西にあり）軒端梅（旧所にあり）

抑いにしへの東北院といふは上東門院の御願にして御堂關白道長公これを建つ法成寺の傍につくらせたまふよし續世繼に見えたり拾芥抄には一條の南京極の東なる上東門院の御所法成寺の内東北の隅なることを扶桑略記には長元三年八月廿一日上東門院東北院を供養ありしよしを書す落慶の導師は僧正慶命なる釋書にのせたる又永承五年十月十三日には天皇東北院に行幸ありし由百練抄にあり是を考ふればいにしへは伽藍巍々壯麗にして天台宗なれ淨刹之其旧地は今の京極通清和院御門の北遣迎院盧山寺等の地也委くは愚撰の平安舊

圖考に載る（和泉式部塔軒端梅は今所々にあり皆東北院といへる謡曲によりて後世作ると見えたり當寺の再興は元祿年中之）

東北院のわたどのゝ遣りみづに影を見てよみ侍る　紫式部

（續後撰）影見てもうき我涙おちそひてかごとがましき瀧乃音かな

元眞如堂（眞如堂の北下壇乃地也眞如堂の本尊は初め叡山常行堂に在せし時一條院の母后白河女院又叡山の戒算上人にも末世女人濟度の為花洛に遷し）下はべし其所には八尺余乃檜木千本一夜に生じけり靈夢ありて白河女院の殿舎乃境地檜木生出たる所は其時の舊地なり

本尊阿弥陀佛（慈覺大師の作立像三尺二寸）白河院宸影　同女院御影（共に畫影）

蓮華童子附屬瑠璃壇（眞如堂草創の時童子來て蓮華織の錦の嚢に土を包て持來る是は天竺王舎城耆闍崛山の土也）佛觀無量壽經を説給ふ時無數乃衆生法を聴て得道し且頻婆娑羅王韋提希夫人往生をとげ阿闍世王も善道に歸入せし其説法の座下の土を七寶の壇に收めて此靈土を取て其上に如來を坐しむると云々又曰祇名瑠璃壇蓮華童子といへる永く此に住して佛法を擁護すべし如來在坐の所には必ず醍醐の清泉あらん佛閣のかたはらに閼伽井を堀べし是我が住所なりといひ畢て去りぬ

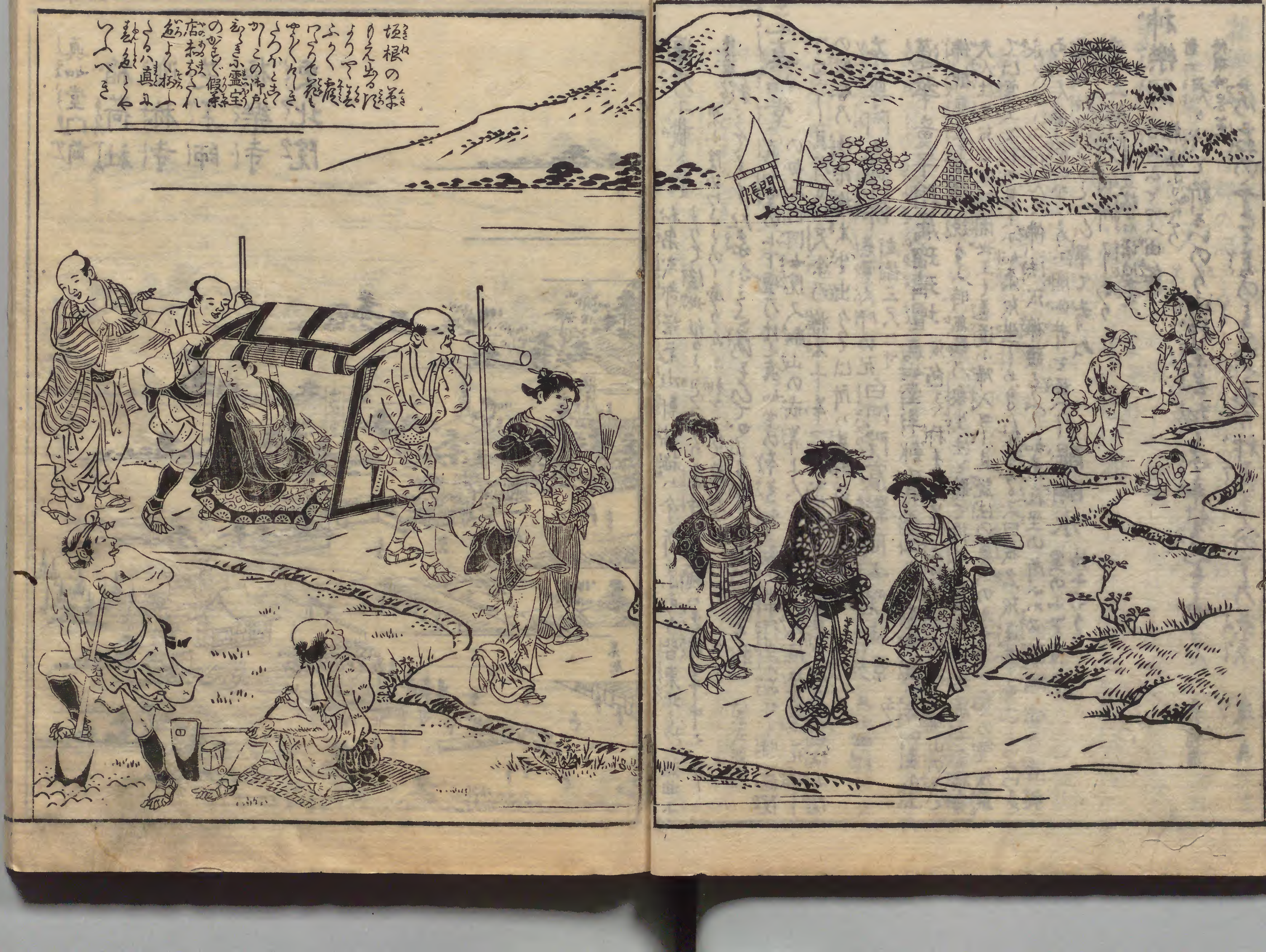
醍醐水（堂の小下壇の地にあり）

東三條院（旧所　五輪石塔婆之あり）

神樂岡（吉田山とて由緣前後の山をいふ）

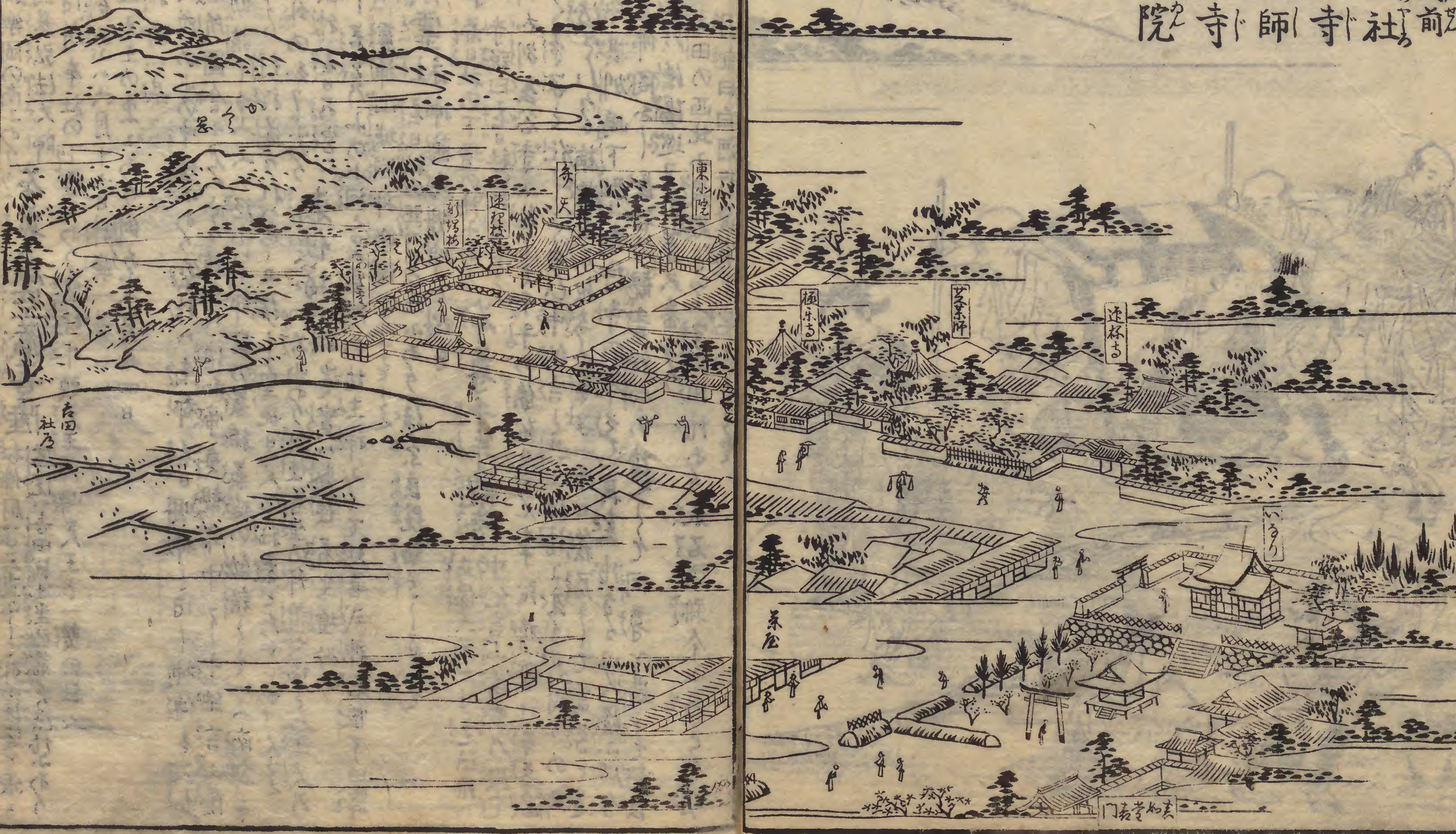
（新六）君が代を祈るいのりの神にある松も千年の木かげそへてん　衣笠内府

（續撰吟墨集）萬代の宮ゐのときはかさねてかぐら神よそへのすみのしのゝめ　道真



垣根の茎もえ出るはようやく春ふかく霞つゝそ花をゆくれしきころかとてかしこの御戸ひらきに霊宝のかきぐ假家店まあられ色よく揃ひさるハ真に賑しさやいふべき

真如堂門前
稲荷社
迎称寺
芝薬師
極楽寺
東北院



東小院
弁天
迎称桜
新場桜
もみ
かく岡
吉田社乃
迎称寺
芝薬師
極楽寺
いなり
茶屋
真如堂表門

智福院　神樂岡の南にあり開基弘法大師　**本尊虚空藏菩薩**　秘佛厨子三重にして外に注連を張る當院ハ吉田社遷坐已前より此地にあり

西天王社　同所本社の下壇にあり祭神牛頭天王岡崎天王と一雙の社也（例祭ハ六月十六日神輿一基）

木瓜社　西天王の東にあり例祭八月廿四日（神輿一基）

春日社　同所の北の中壇にあり祭神ハ南都春日明神と同し神傳を大和名所圖會にくハしく鎮坐ハ清和帝貞觀年中なり中納言山蔭郷初て勧請し給ふ又一説にハト部家の祖兼延の勧請ともいへり南都を平安城より行程遠けれハこゝに移し皇妃まし人の社参とたやすからんとて

若宮　門外の左りにあり祭神春日若宮之

勅使塚　門前にあり勅使着坐の拜所之塚とハ土人乃口称にて實ハ勅使着坐壇なり

神樂岡神　若宮乃北の小祠之是當所の地主神にして延喜式神名帳に曰霹靂神山城國神樂岡に坐をとゝ之

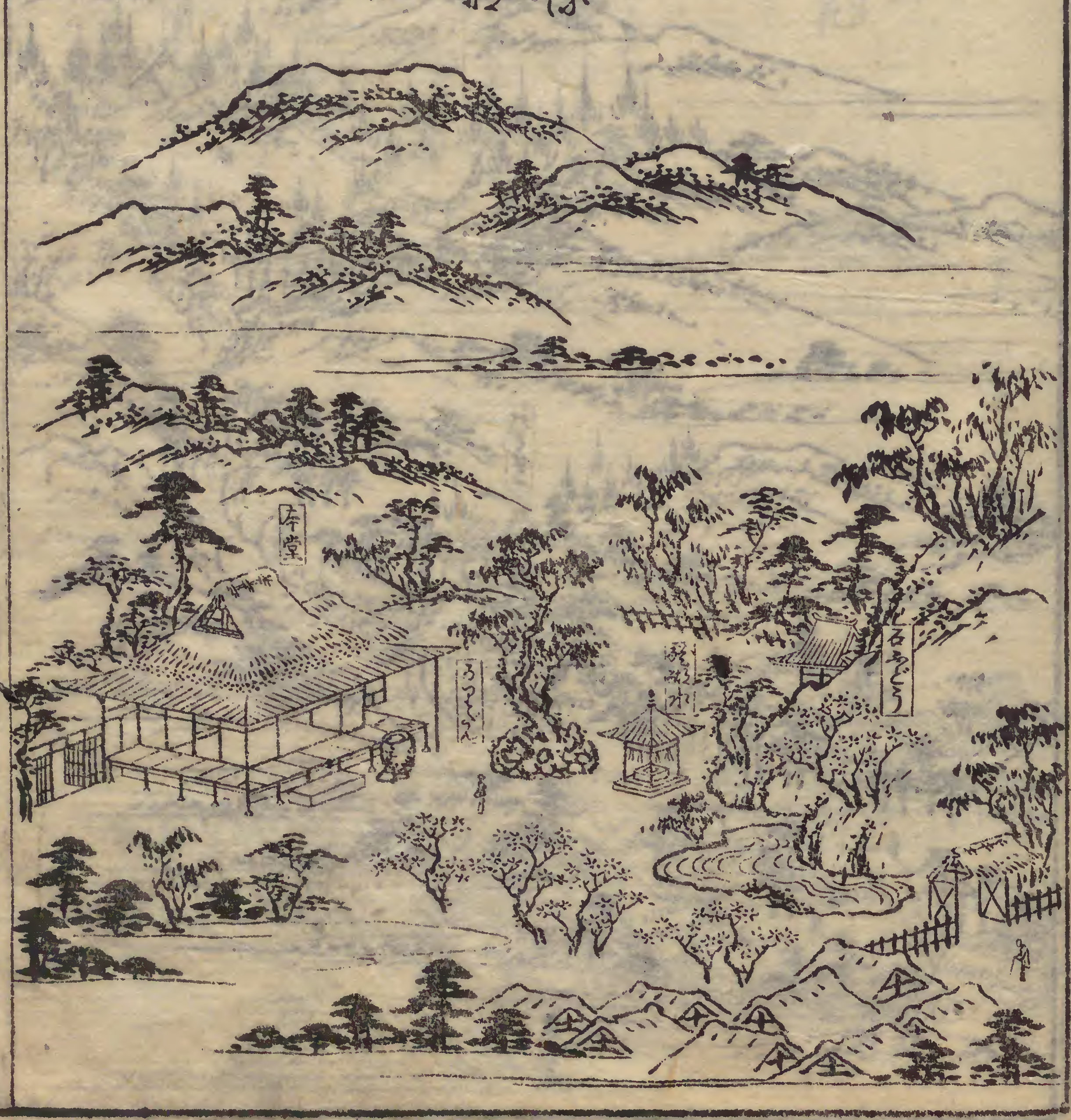
卜部兼倶霊社　春日社の巽乃山上にあり後奈良院勅号し給ひて神龍大明神と称す

新長谷寺　春日社の下壇の地にあり寺説曰春日社の神宮なるを　**本尊千手觀音**　之像六尺二寸元此地ハ中納言山蔭卿乃殿宅也　あり彼卿ハ別長谷寺に詣して千手の像を造らん事を祈誓に奉る感應ありて童子と化し給ひ中納言と共に此地に来り其所の御唐士より渡したる楠栴檀香木を以て一尊を刻み一千日籠居して霊像を造之を即ち摂州嶋下郡惣持寺の本尊とし其餘材にて此地にも殿舎故ありし佛閣を悉く長谷の観音此所の地へ移して同尊を造つて新長谷寺と号して佛道場巡礼の第又番なり

吉田泉殿　吉田の西北に泉殿と云ふ字の田地あり水石の跡今に殘りて明月記曰白河行隆弁の宅ありとそ

本眞如堂

涼しさを
野山にみつる
念佛かな
去来



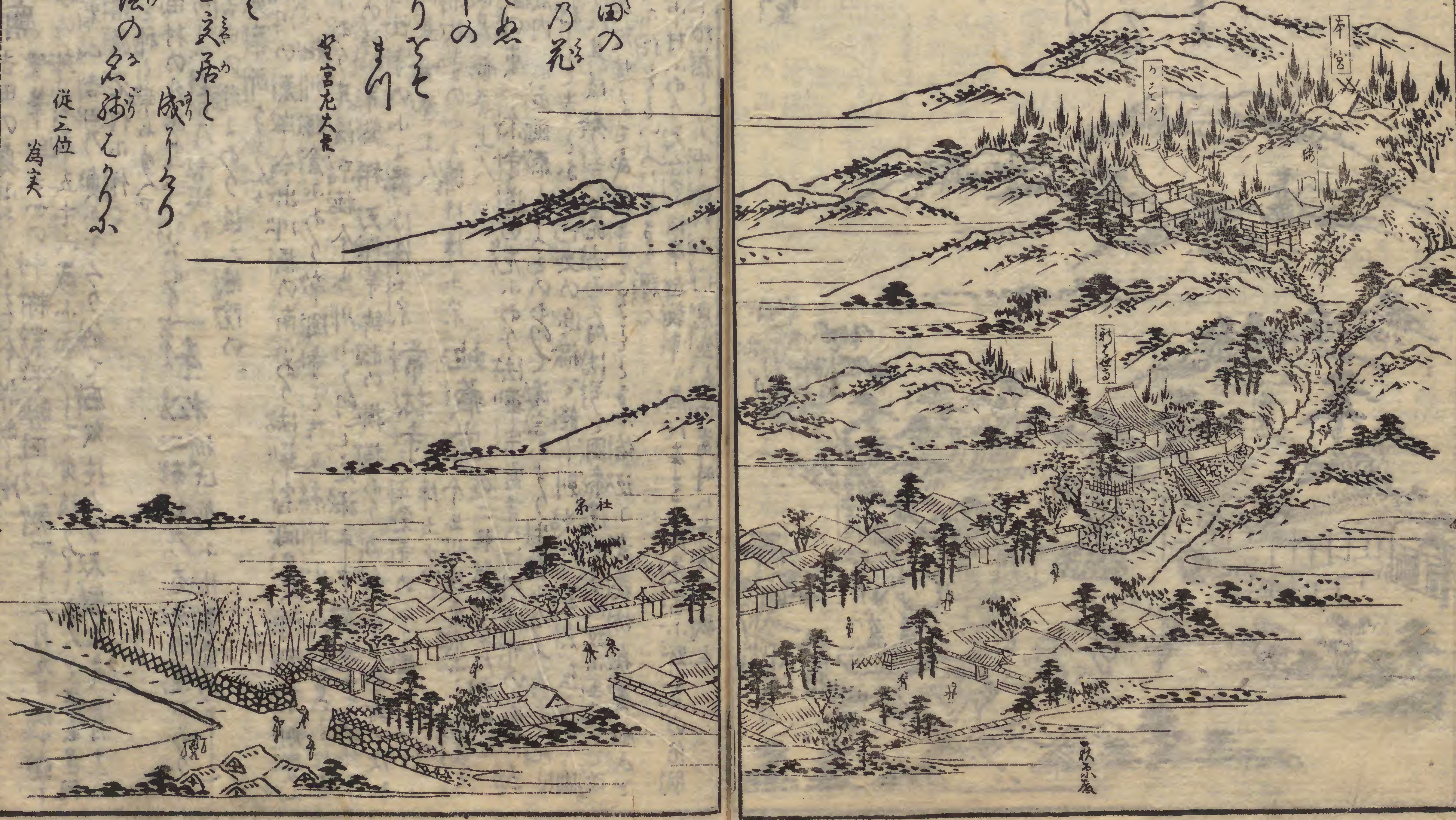
吉田春日社（よしだかすがのやしろ）
新長谷寺（しんはせでら）

夫木
行末も吉田の
森の桜の花
尽せぬ
中の
ちきりをそ
まつ

世宮左大臣

玉葉
とへらんとも
おなし宮居と
成りにけり
只山藤の名残をそ思ふ

従二位
為実


本宮
かくらをか
新はせ寺
社

業平朝臣廟 吉田の奥にありしとそ今詳ならず 暁筆記云かの中将業平朝臣元慶四年五月九日病を発し同廿八日子の刻卒す歳五十六歳に而して身はうせぬ遣人ありて溢去造綱みは凡て世東山吉田乃奥にをくり納て廟を作る天暦元年七月十一日左少弁紀清原光佐に仰て中将の霊を神と崇めまつりて

二本松 吉田村の外西に一町計にあり いにしへ春日乃末社あり **一本松** 二本松乃南路の傍にあり 初は此所に地蔵堂ありし之

身隠森 吉田の乾にあり後二條院の火葬所なりといふ

法性寺 鴨川の東岸今出川橋の南にあり法華宗開基ハ阿闍梨朗慶之 初は相州鎌倉にあり本圀寺と共に祖師に乞り其しれるを洛下壬生にあり其後京極今出川にうつて元禄年中炎焼して此地へうつる当寺の鎮守に算盤秤天秤等鋳形の模様あり諸人見て奇異とす

正栄寺 開基唱誉上人 法性寺の北に隣ル浄土宗 **常林寺** 浄土宗也 正栄寺の北に隣ル

長徳院 開基観誉上人 常林寺の北に隣ル浄土宗 **地蔵堂** 今出川橋東爪にあり地蔵尊の二軀は安阿弥作唐仏之

武蔵寺 紀の東一条寺道の左にあり法華宗当寺ハ江州浅井の家臣武蔵内蔵丞国泰といふ人そのあやまちて讒言により生害に及ふ其妻尼となり宅を捨して寺となし亡夫の追福を修し則夫乃実名を取て国泰寺と号す其後秀吉公薨去ありし時法号を国泰院と号す故に寺号を改てかの名字を摘んで武蔵寺と号すとそん俗説に武蔵坊弁慶といふを出て此所に住せしといふハ大なる謬也

青龍寺 田中村にあり天台宗坂本西教寺に属す本尊ハ地蔵尊小野篁の作 粽の地蔵といふ中興ハ山門恵空和尚当時ハ女僧住職を

佛々 百万遍西門の前畠の字之初メハ此地涌出て地中より水漏出て其まゝ常に沸々といひし故土人字とせしと

地蔵堂 同所西門の外南向にあり本尊ハ延命地蔵尊春日の作之像又尺計 脇士左不動右毘沙門共ニ上と同作初ハ京師水落西光寺にあり

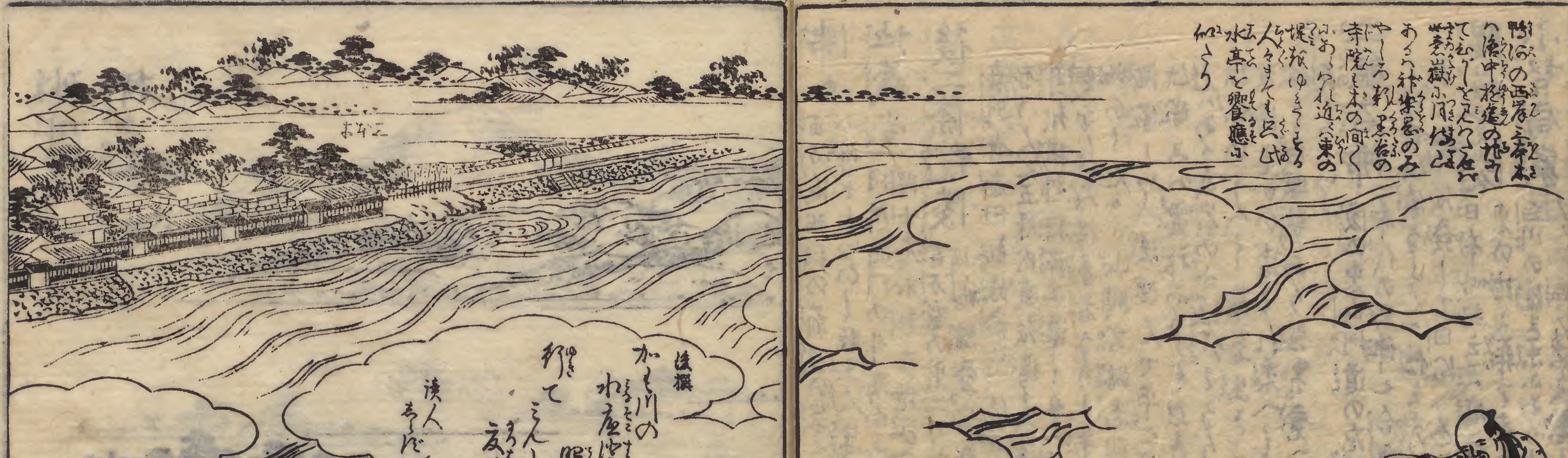
後二條院陵 百万遍の東二町計路傍の小社なり 帝陵記曰 後二條帝陵 山城国愛宕郡小白川村畑中にあり字を福塚といふ

雍州府志曰勧修家の一代五條大納言国綱卿の墳なり或云国綱卿ハ元富有乃人也五條内裏を造る又治承四年平相国清盛公の勧めによりて都を摂州福原に遷しめ其時国綱に里内裏を造らしむかるかゆへ世人大福長者なりしと平家物語にもいへり是を世人福塚と称する依なるらん。山州名跡志曰中頃陵の巡凹にしてつふにありの依く此塚といふ後世訛んで點を改て福塚といへりむりよう此塚ハ霊神ありしと其まとうち三十年前近隣吉田村に住るのあり元ハある武家の士浪人となり叙生成ならえて生質猛勇なる毎に豪此塚のうへに葫萎生しこれを好んでそのあまりもおそれて柔ことなし を好りとかの者ことし柔へしとて塚の頭に登りに小祠ありて首を延く白眼勢あり強気覚へたりして戦慄して家に帰て惆悵して終に死をとつ

二軀石佛 陵の東白河道の左傍にあり二躰共坐像四尺計甚古仏にて希代の大仏也合運図云宝徳三年三月小白川の仏像動くといふは此像なりといふ秀吉公の御時聚楽城に移しけれハ此像夜ことに声を発して白河へ返せと鳴動せしかハもとの地へかへすと

陽成院陵 東の山にあり 日本略紀云天暦三年九月二十九日陽成院を上皇を神楽岡乃東の地に葬り奉ると云 帝陵記陵所未詳とし云

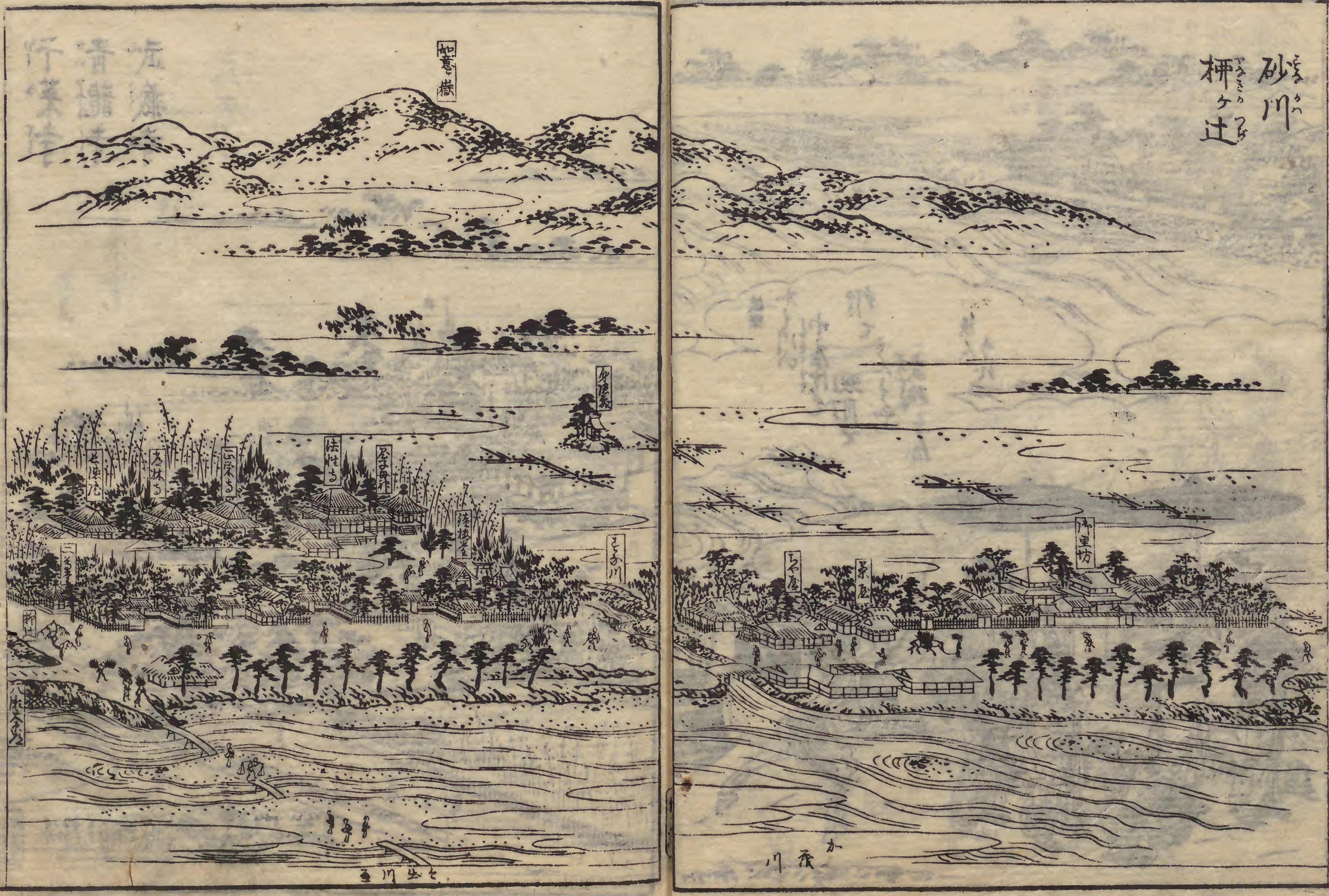
小督局家 白川の流ま末にありしとそ平家物語曰長門守に云信西の女天下第一の美人之容色なり琴やうにも世に勝れ上白河の院に候ハれハ小督局とぞ申ける



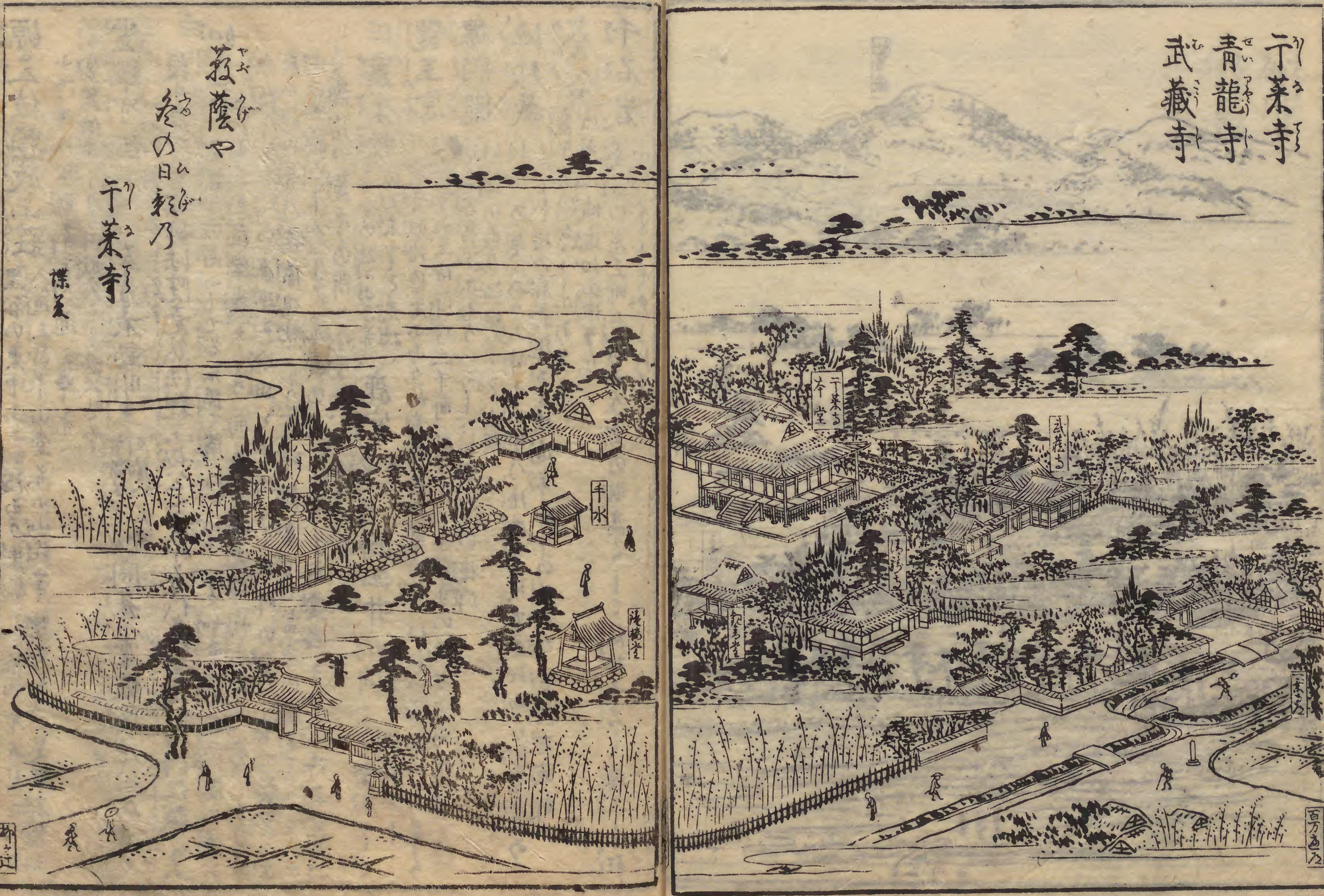
鴨河の西岸二条より
へ洛中遊宴の地にて
てむかしを見るに近比は
東山嶽に月は出て
あるハ神楽岡のみ
やしろ新黒谷の
寺院も木の間く
おのづから近くハ東の
堤づたひゆきてまたる
人〻すゞしも是より
水亭を饗應に
備ふ

後撰
かも川の水底澄て照月を
行てミんとや夏祓する
読人しらず

国立公文書館
National Archives of Japan

砂川（すなかハ）
栁ヶ辻（やなきかつぢ）
如意嶽
法住寺
茶屋
ちや屋
栁辻
八瀬大原みち
か茂川

亍莱寺(りうかうじ)
青龍寺(せいりうじ)
武蔵寺(むさうじ)


亍莱寺
本堂
武蔵寺
青りう寺
観音堂
八まん
地蔵堂
手水
鐘撞堂
亍莱寺乃
百万遍乃
柳ヶ辻

藪蔭(やぶかげ)や
冬(ふゆ)の日影(ひかげ)乃
亍莱寺(りうかうじ)

楳美

源三位頼政山荘 黒谷の東中山に旧跡あり東鑑云治承四年五月廿四日入道三品中山堂并に山荘等焼失すと云云是則高倉宮に御謀叛を勧奉て入道三井寺へ趣を供奉しまゐる時放火せしとなり

霊鑑寺 禅宗鹿ヶ谷にあり本尊不動明王（智證大師の作之像一尺餘）開基ハ霊鑑院尼公にして後水尾院皇女妙法院堯然法親王母公也それより代々比丘尼御所御住職なり

如意寺 霊鑑寺の南にして谷を隔て隣なりいにしへは如意嶽楼門瀧の傍にありて諸堂巍々たり開基智證大師此山を巡覧したる所に忽然として一ツの魔現れ嶮岨と平均し大師の叢を喰て巌窟に至るこれに観世音乃霊像現然たり大師歓喜して当寺の本尊とし給ふ乱逆の世滅亡し久しく荒廃の地となりしを霊鑑寺尼公御再建ありて旧地の麓今の所に小堂をいとなみ給ふ

霊木桜 本堂の後にあり希代の大木にして老桜也 **鹿宮** 桜の傍にあり **閼伽井** 旧所にあり霊泉にして寒暑に増減なし

龍王宮 如意寺旧地の東にあり如意寺の伽藍の跡ハ此社の巽二町にあり是より三井寺に至は行程二十町計にしてかの寺の講堂の前に出る

楼門瀧 鹿ヶ谷の上にありいにしへ如意寺の楼門此傍にあり故に名とす

池地蔵 旧所の奥にあり山峰に石像乃地蔵尊を安置し初メハ如意寺にありしかして池の名義詳ならず近年都下の諸人群参して霊験新也

葵谷 龍王宮の東にあり此所山城近江の堺なり

千石岩 葵谷の左三町計にあり岩の形高くして俵を千石を積上し形に似たるをもて名とはなる

如意城 旧蹟楼門の上五町計にあり足利義晴公の造立也亡滅の後天文十九年細川晴元再興を同年三好長慶放火して亡しぬ

大豊明神社 鹿ヶ谷村巽の方にあり祭神牛頭天王なり土人生土神とす例祭ハ九月九日神輿一基

辨慶屋敷 同村の境地観無寺の北四町計に田の字あり

十禅師社 鹿ヶ谷の北銀閣寺の門前にあり祭神山王十禅師又同所に八所明神の祠あり共に土人生土神とす

中尾山 銀閣寺卯辰の間五町計にあり足利義政公此地に居し時此峯に番兵を置て遠見をなさしむ又将軍義澄公此所に城を築く

白河 水源ハ山中村よりながれて末ハ鴨川に入此総名ハ白川といふ

名寄　うつしうゑてしこ
撫子の花ハおくる様すれハいま白川の里にぞ茂れる　小町

拾遺愚草
惜とハ人そさそひゆく風に立浪の花にそ見る白川の里　定家

玉吟集
波の音ハ松乃嵐に聞ゆ也卯の花さける白川のさと　家隆

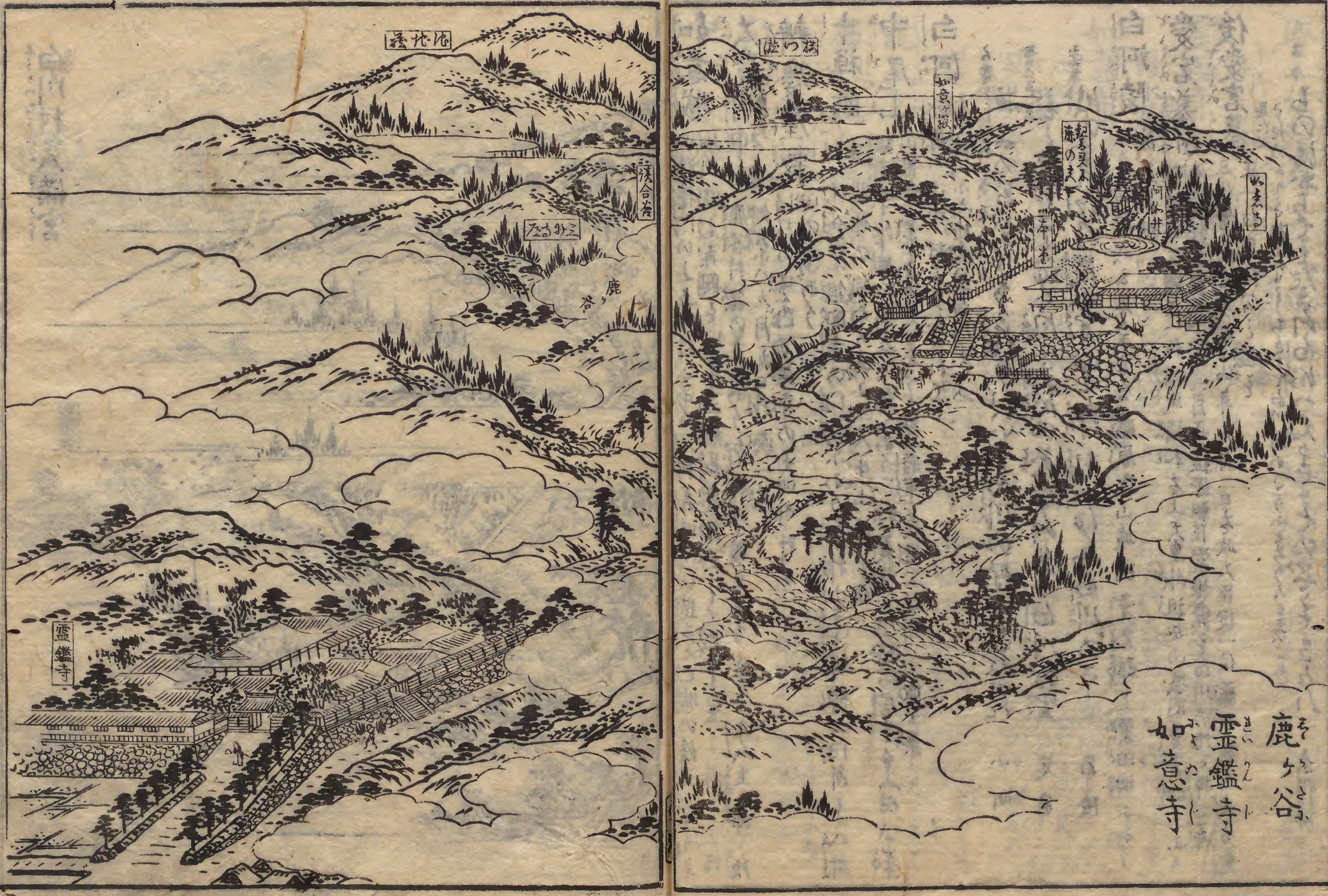
白河陵 延喜諸陵式云太皇太后藤原氏山城国愛宕郡上粟田郷にあり陵戸三烟

愛宕墓 同諸陵式云贈正一位源氏清和太上天皇外祖母山城国愛宕郡にあり

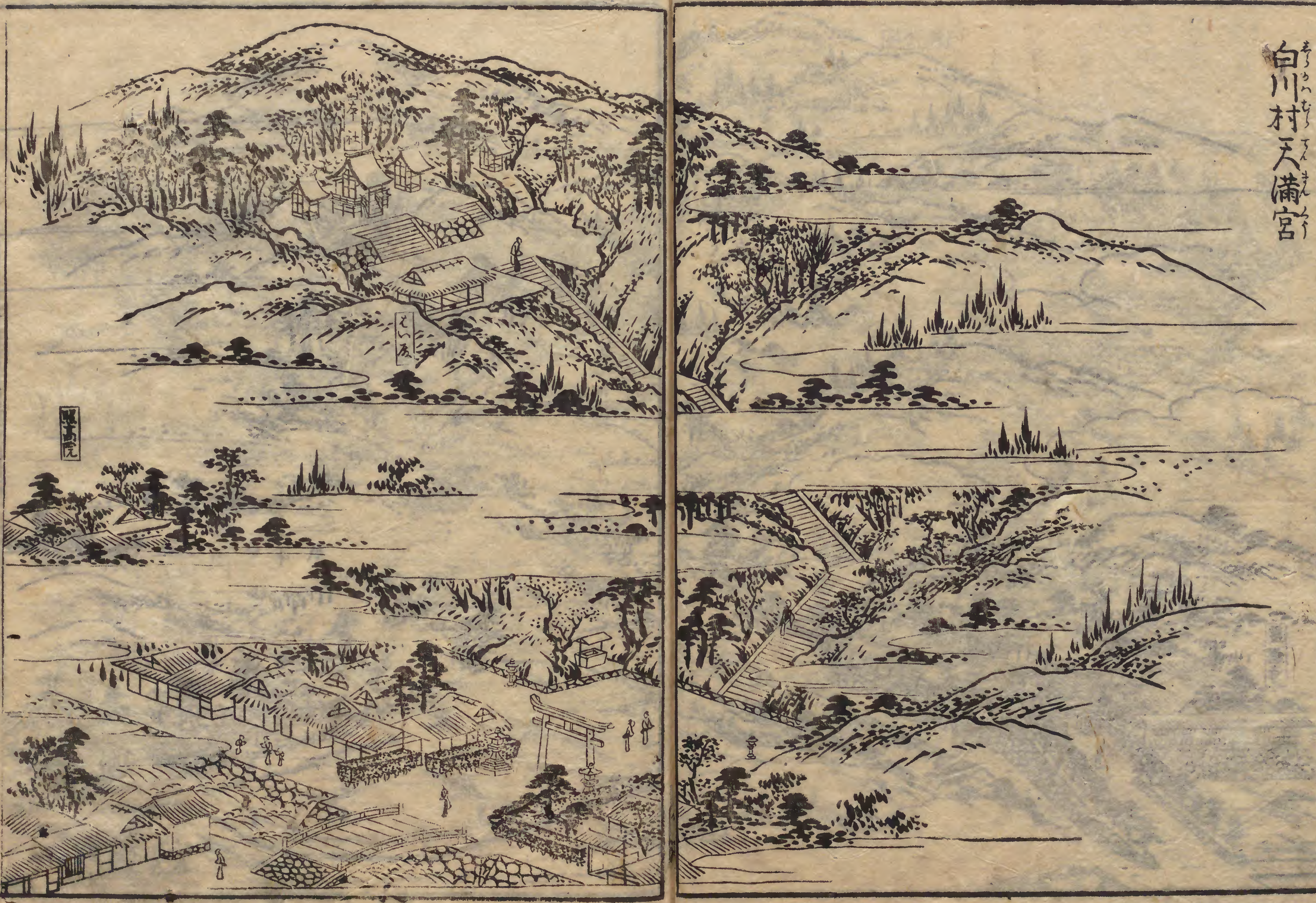
後愛宕墓 文徳実録云斉衡三年六月正二位源朝臣潔姫薨を白川の地を択て葬る三代実録云貞観十四年九月二日太政大臣従一位藤原朝臣良房薨正一位忠仁公と謚す

古今　忠仁公
さきのおほきおほいまうちきみを白川のあたりにおくりける夜よめる
ちの涙おちてそたきつ白河ハ君か世まての名にこそありけれ　素性法師

国立公文書館
National Archives of Japan

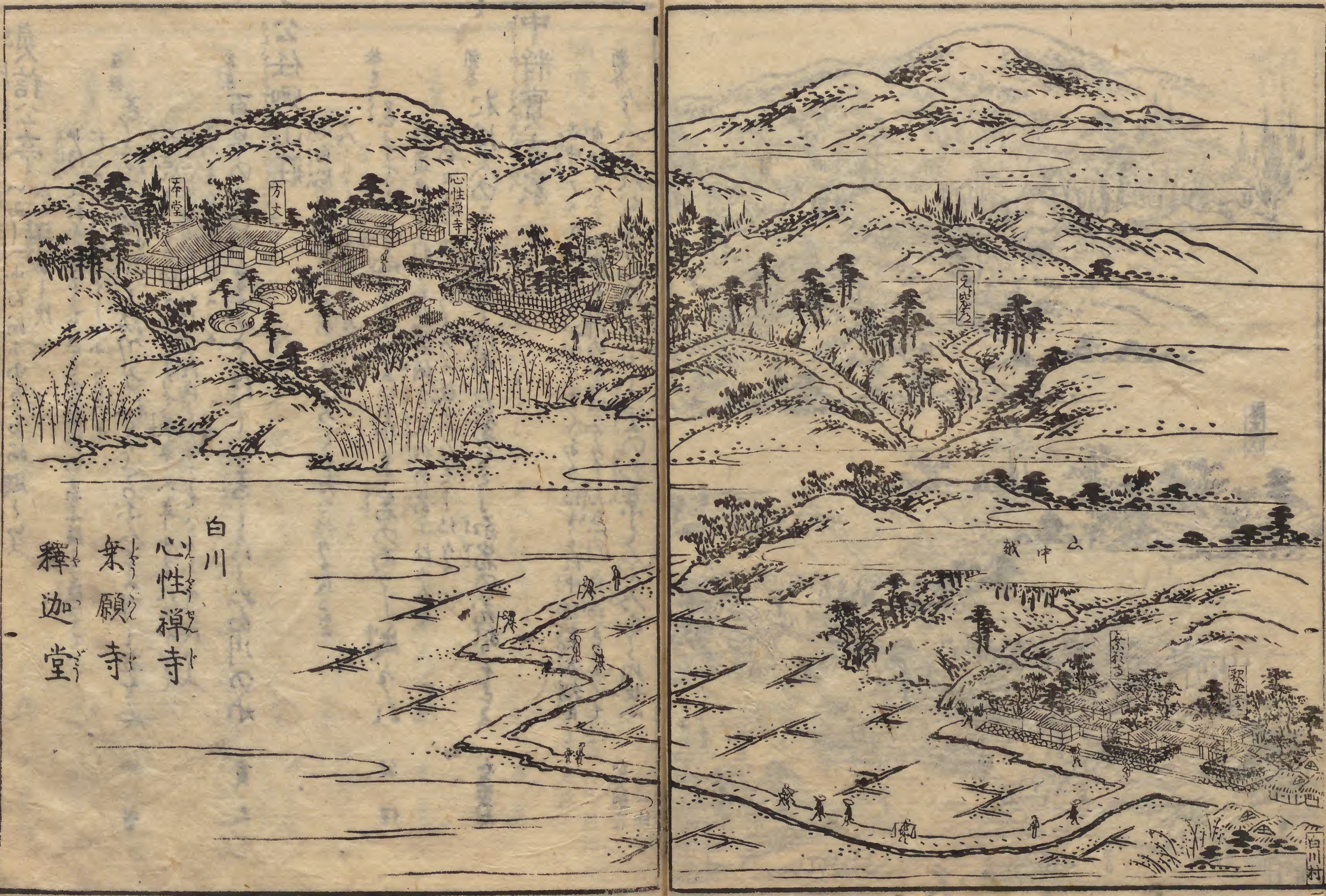

池地越
楼門滝
如意ヶ嶽
談合谷
三好古石
鹿ヶ谷
起喜天木麻の丈
阿伽井
本堂
如意寺
霊鑑寺

鹿ヶ谷
霊鑑寺
如意寺



白川村天満宮

国立公文書館
National Archives of Japan



貞信公亭 いにしへ北白河にあり白河殿といふ（今詳ならず）

拾遺　貞信公
御はしたかにまうちきみの白河の家にはなり侍りて
たゞ今人のさうしにたまりて

しら河の瀧のいとみまほしけれとみたりに人をよせし物をや　中務

家集
延長八年とさのかみにくたりて承平五年に京にのほりて
左大臣白川殿におはしける折ふしそこにまゐりて
まうできてよめる

百草の花のかけまてうつしつゝ音もかはらぬ白川の水　貫之

公任卿山荘
北白河に山荘に花のおもしろくさきて侍りける見に
人々まうできたりければ

拾遺
春きてそ人もとひける山里は花こそ宿のあるしなりけれ　公任

敦道のみこのともに大納言公任の家にまかりて
又の日みこのつかひにて申侍りける

新古今
をる人のそれなるからにあちきなくみし我宿の花の香そする　和泉式部

中將實方家
世中はかなく人々おほくなくなり侍りける頃中将実方朝臣
失なりて十月末白川の家に侍りけるに紅葉の一葉残れるを見て

新古今
けふこすはみてや屋まし山里のもみちも人も常ならぬ世に　前大納言公任

北白川天滿宮 白河村南の方にあり土人生土神とす例祭は九月十三日神輿一基鳥居の額道晃法親王御筆之摂社は山王春日八幡宮

照高院 同所にあり聖護院退院御所之開基は興意法親王寺門の長吏聖護院の後澤寺と号す殿舎は伏見城松の丸を引移し道晃法親王修補なさしめ給ふ

黄葉集
照高院宮にまいりて
あさからぬ庭に向ふ面影のまちかくこゝに峯乃しら雲　光廣

衆妙集
慶長四年九月八日三井寺講堂御再興ありて猶子と
立らせし給照高院宮へまいりてかく申ける
たくふなる三井の流をひきとめて又は汲しる法のみなもと　玄旨

寛文元年正月廿五日行幸白河照高院にありて
以爲行宮
里の名をしらぬる雪にあらはれてこれも松の色もまさりけるを　御製

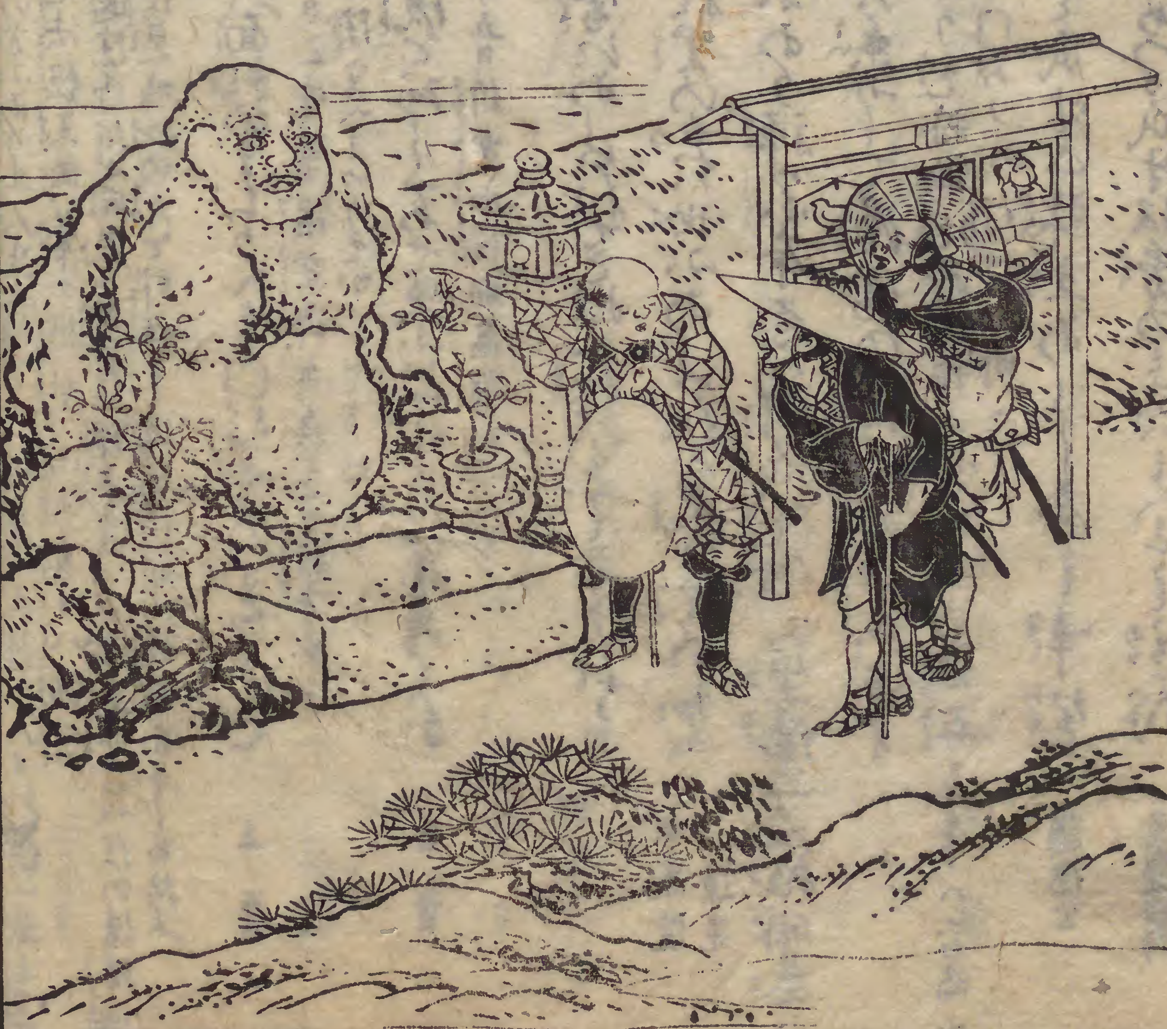
ふる雪の色よりも猶里の名は世にあらはれん君か其教　照高院道晃

心性禅寺は同所北の方にあり禅宗本尊は阿弥陀佛の坐像二尺許開基は三則龍和尚也此所美景にして洛陽の萬戸眼下に遮る

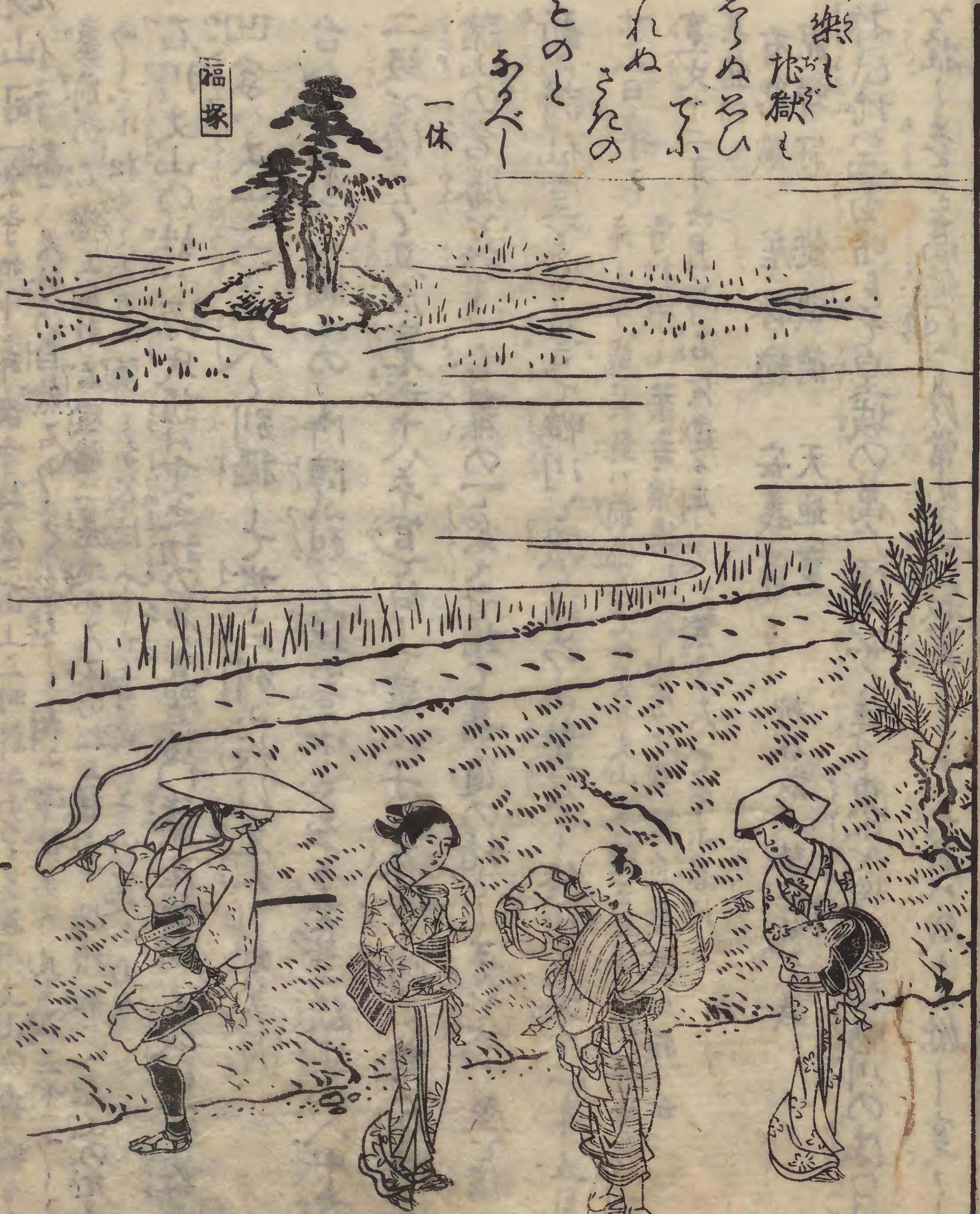
瓜生山 心性寺の艮にあり元将軍地蔵の地也則古城の形存す本尊は北端に
うつして心性寺門にあり行程八町也

新勅撰
行人をとゝめかねてを瓜生山峯立あらし寒も嘯覧　謙徳公

名寄
名にかゝるくすりをしめつる瓜生坂夢のこたへに人もとむらん　恵慶法師



小白河の石佛ハ希代の大像にしていづれの代乃作といふ事をしらず孫子に孔子のごとく西方に聖人あり乱れ言どとへきれるさやうなき



極楽も
地獄も
しらぬそひ
でふ
生れぬ
さきの
とのと
あるべし

一休

頑仙祠　一乗寺郷中舞楽寺村辰巳山上三町計にあり是石川丈山の壽壙なり
高サ八尺餘の自然石にして銘をきざし表に碑銘あり其臺石三重にして
墓前の石壇上三間計石燈爐二基巡に大木の松三株あり此地都て赤土の丸山
にして小松少々あり四隣ミな谷深くして壽壙ハその嶺にあり

○石川丈山の姓ハ源氏諱ハ重之初の名ハ嘉右衛門後に左親衛と改む一の諱を
凹字ハ丈山又六々山人と別稱して世に三別に住して元和乙卯五月
台命を蒙つて圀山の　御陣に烈つて竊に営中を出て不意に敵軍に入甲首
二級を得たり其后寛永十八年官を辞して羅山子を友とし常に詩を詠し
諸山の名勝を訪ふ　台麓の一乗寺を相て嘉遁の地とし茅を把て屋を構へ
新に詩仙堂を営ミ誓つて鴨川を渡らずして蟄居し終に寛文十二年五月
廿三日卒す　年九十歳其餘ハ前編にくハし。丈山年譜云正保二年擇地舞楽寺村中山築壽壙構祠於山房之巽隅自号頑仙祠云云
寛文十二年六月碑石を建る序文ハ繁によつてこゝに略す

其銘曰

有器識　居林巒　安義節
泥蟬冠　懿哉德　天地寛
柳谷散人埜子苞父識

抑此地ハ西南晴れて皇城の萬戸雲のごとく連つて東北を巡る高野鴨川の流ハ月
を揺し音を高低ならず常に山頭寂寞として英名ハ歳々に添し寔なり
満林風雨精霊を護しつゝ東坡が蜀山の古廟ともいひつべし

舞楽寺天王社　舞楽寺村山腹にあり一乗寺八大天王と同体にて土人生土神とす諸社根元記
云舞楽寺社八大天王西方末社諏訪八幡いにしへハ此所に山門の末院ありて
舞楽寺といふ殊に樹林多くして抖擻の地とす薩戒記云應永卅二年九月舞
楽寺一乗寺等に遊覧ありて又二水記云永正十四年十月将軍一乗寺舞楽寺に遊覧し給ふ

金福寺　舞楽寺天王の下にあり禅宗南禅寺に属す中興ハ鉄舟和尚なり
本尊ハ正観音慈覚大師の作長一尺五寸計

芭蕉庵　同所後の丘にありて蕉翁都往来の時こゝに寄宿を故に芭蕉庵と
号す年久しく頽廃せしを安永年中再興して與謝蕪村が撰写経社集乃
序に見へたり又庵の北に芭蕉翁の碑石あり清田文興これを撰ぶ　其文曰

芭蕉翁以諧歌聞於海内諧歌即世所謂俳諧者　翁之履歴人往往
詳之蓋伊賀人罷仕隱於　江戸又住江之大津遷於攝而終　翁沒
七十餘年高士韻人與夫諧歌者流思慕稱讃不已　翁冢所在有之
姪道卿新建於東山詩仙堂南金福寺中請予銘焉予義祖伊藤坦菴
先生亦與　翁交坦菴集中有謝　翁邀飲詩亦可以想　翁爲人矣
今之諧歌要有二端牛鬼蛇神眩耀萬目打油釘鉸脂韋芻口野服葛
巾風標如仙而明人所謂那白雲常飛卓袒屋上　翁作諧歌清新不
俗澹有骨力庶幾詩家陶韋抑又上援杜陵下伴香山亦或可擬世傳
　翁風神散朗侯鯖如茶泓崢之寄杖屨千里可謂進于技者矣道卿
名敬義子仲氏第二子出嗣樋口氏爲吾藩同宗川越侯源公知京邸
事慧而不苟介而能圓多諸技藝其於諸歌蓋亦有師受淵源云道卿
與　翁生不並世出處異轍而心醉不已至有斯擧蓋有臭味相契於
衷者嗚呼　翁者予義祖所交而道卿尸祝焉予豈漠然銘曰

才腴貌癯　錦心綉腸　行雲流水　十暑三霜　野老争席
桃李門墻　人與骨朽　言與譽長　勒珉此處　建冢多方

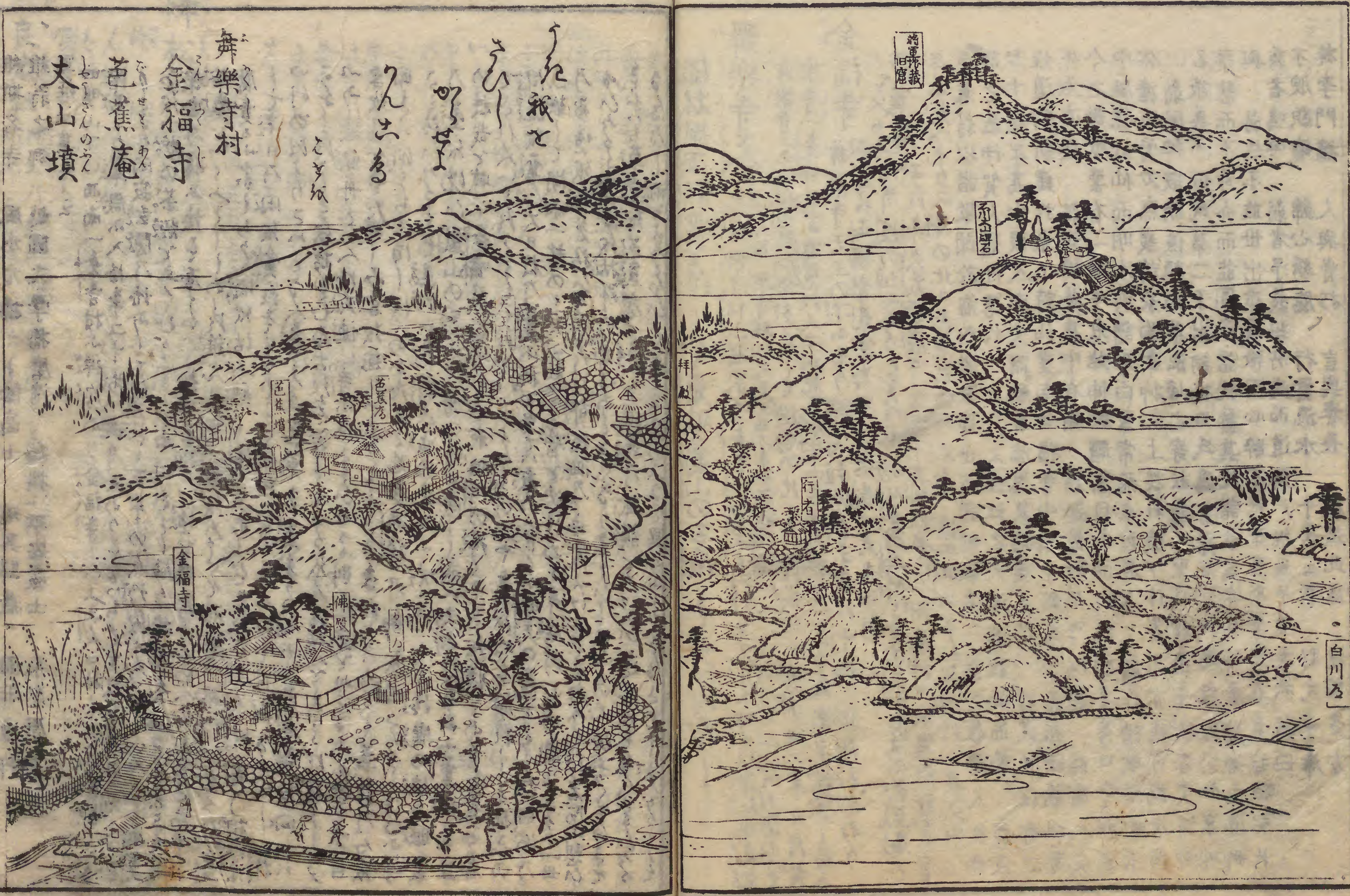
舞楽寺村（ふがくじむら）

金福寺（こんぷくじ）

芭蕉庵（ばせをあん）

丈山墳（ぢやうざんのつか）

うき我を
さひし
からせよ
かんこ鳥
　はせを



将軍塚旧蹟
丈山碑石
拝殿
天王社
芭蕉庵
芭蕉塚
行者
金福寺
佛殿
白川乃

維斯名寺　風水允揚　卜隣高士　魂其歸藏　雖非桑梓
維翁之郷　越國文學播磨清絢撰　平安處士永忠原書

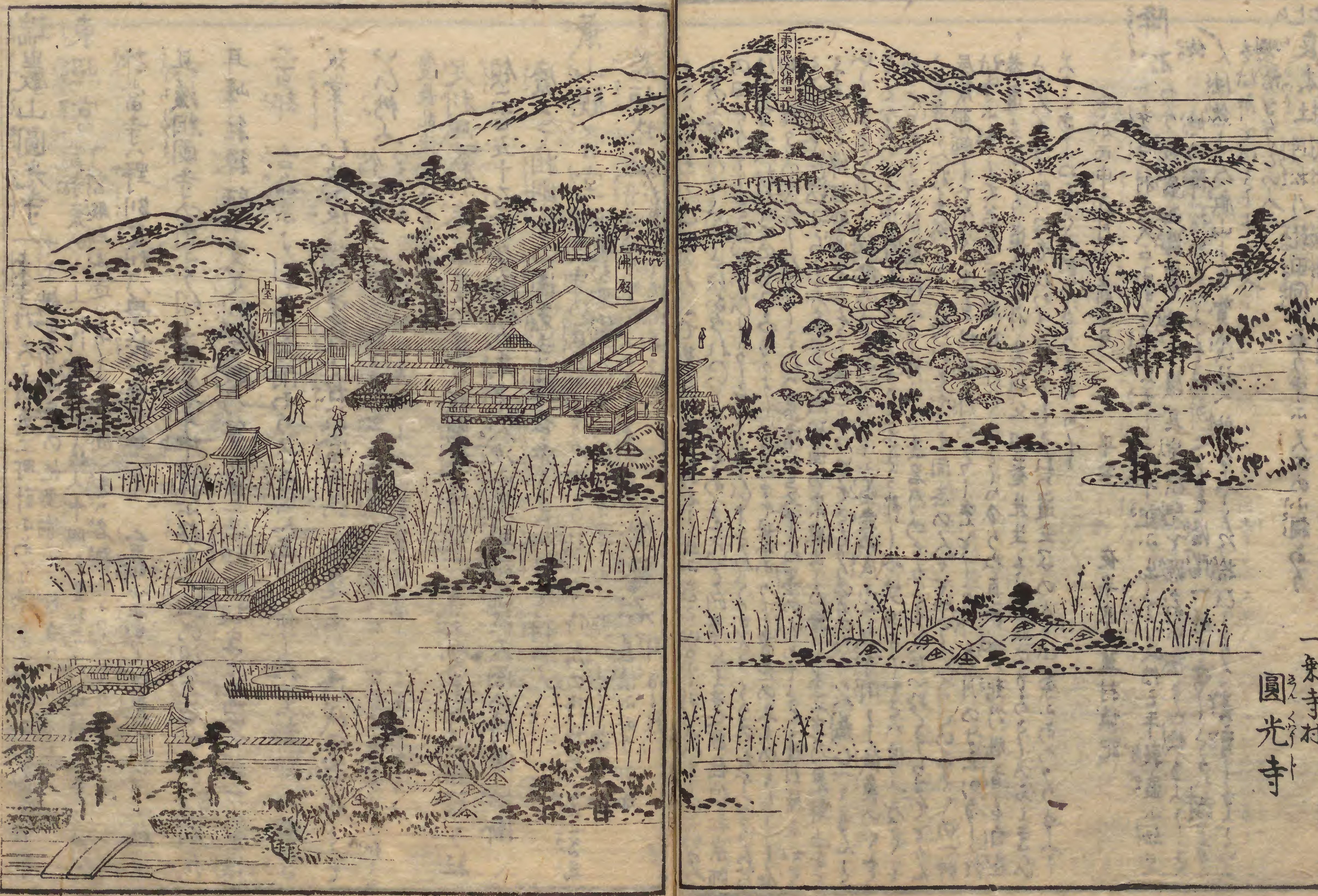
寫経社集序云

四明山下の西南一乗寺村に禅房あり金福寺といふ土人口称して芭蕉庵と唱ふ階前より翠微に入事二十歩一塊乃丘ありすなはちばせを庵乃遺蹟也とぞもとより閑寂玄隠乃地にして緑苔やゝ百年の人跡をうづむといへども幽篁なほ一炉の茶煙をふくむがごとし水行雲とゞまり樹老鳥睡りてしきりに懐古乃情に堪ずやゝ長安名利乃境を離るといへどもひたぶるに俗塵をいとふとしもあらず鶏犬乃声籬をへだてゝ樵牧乃路門をめぐれり豆腐売る小家もちかく酒を沽ふ肆も遠きにあらずされど詞人吟客乃相往来して半日乃閑を貪るたよりもよく飢をふせぐまうけも自在ならんかし抑いづれの時よりかさはとなへ来りけるにや草かる童麦うつ女にも芭蕉庵と問へバかならずかしこを指さすさるに人其ゆへをもしらず竊に[illegible]むかし鉄舟といへる大徳此寺に住しけるが別に一室を構へ手自雪炊乃貧をたのしみ客を謝してふかくこゝに籠れり[illegible]蕉翁乃句を聞くへ[illegible]忘機逃禅乃郷[illegible]さるゆゑもあるべくこそ其かみや蕉翁山城の東西に吟行して清瀧の浪に眼裏乃塵を洗ひ嵐山の雲に代謝の時を感じ或ハ山の夏衣に薫風萬里の壮哉を賦し長嘯乃古墳に寂寞独行の跡をしたひて[illegible]を憐み薦を着て誰人いますとうめしろしきのふや鶴をぬすまれしと孤山の風流を慕ひ大日枝乃麓に杖を曳て八瀬大原のさくらに暁天の霞をきらひ白河乃山越して湖水一望のうちに杜甫が眥を決し辛崎乃松の朧なるに一世乃妙境を極めたらんされば都俳徊[illegible]此岩阿に憩ひ[illegible]いのちの大徳ふかく[illegible]草堂を芭蕉庵と号し翁乃風韻をしたひ遺忘にそなへたる[illegible]雨と[illegible]と異なりてもさはさありし多かりしぞ去らハあまたゝびこゝにて蕉翁の口號とし世にきこゆるもおほかりけりてふハ[illegible]かの筆乃すさみづから[illegible]住侶松宗師の曰さり[illegible]うき我をさびしがらせよと[illegible]此山寺に入れりて[illegible]世にありし耆老のふることにも[illegible]されバ露霜のきえやらぬ墨の跡[illegible]年月流去なく此の[illegible]無功徳の宗風さへ[illegible]穏く不立字乃見解あること[illegible]佛経聖典もをさめて長むしれいぞ[illegible]藏むべきものにもあらんといとうつくしき羅漢の[illegible]茎壺の底にひら等閑紙魚のやどを[illegible]追ふ[illegible]くもあつめたゝうては勝地ハうへまて名乃のこらうるをなんぞ[illegible]すてとりんこと罪ざんおそろしく侍れどやゝ同志の人々をかたらひ[illegible]一艸屋を再興してふるきまゝを[illegible]卯月の[illegible]長月の[illegible]此寺に舘して翁乃高風を仰くさいふにあらぬ再興發起乃魁首も自在菴道立子なり道立子乃大祖父坦菴先生も蕉翁の[illegible]さまへりける師にそれ[illegible]されバ道立子の今此挙にあつかり玉ふも大かたあさからぬすくせのちぎりなりけらし

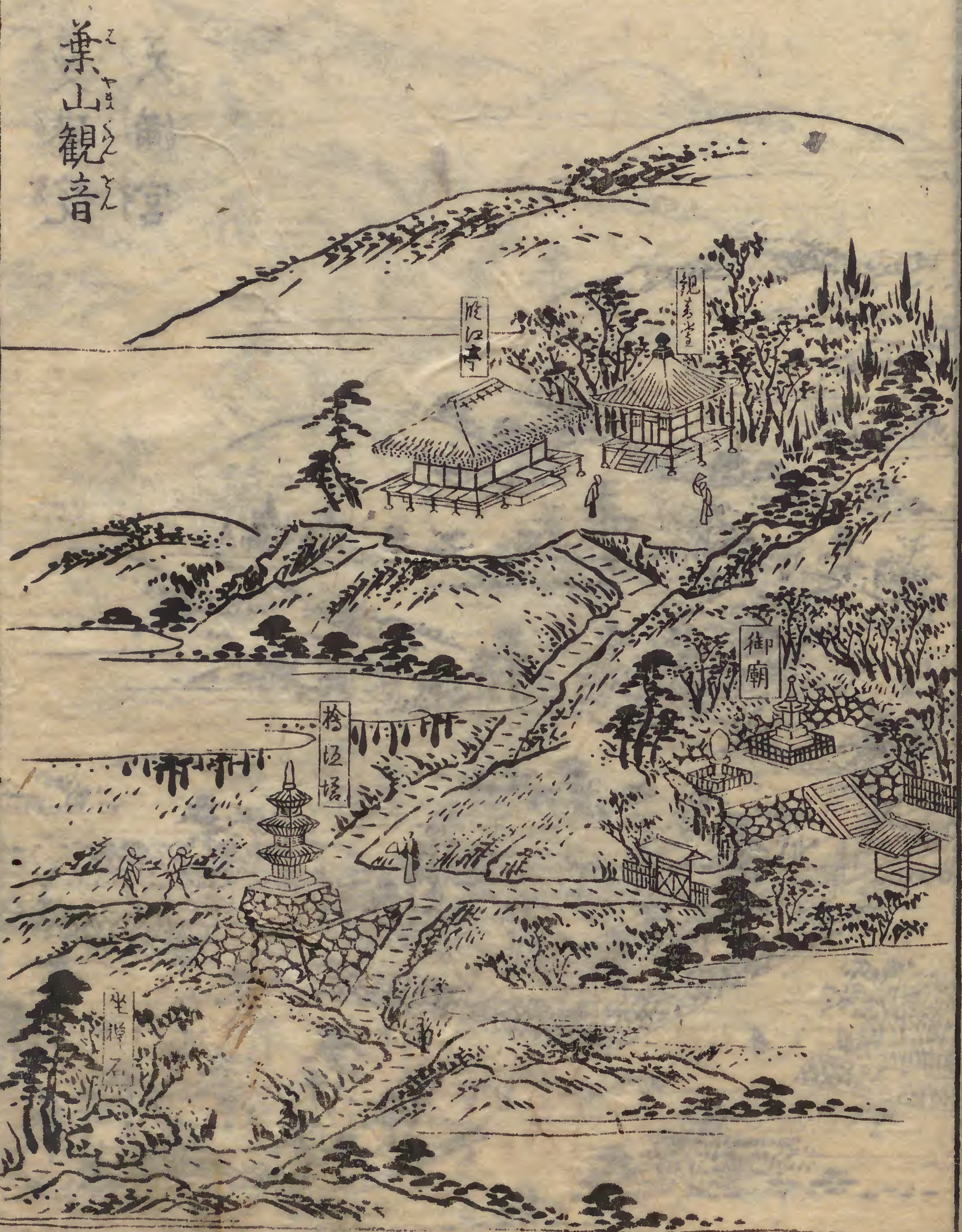
安永丙申五月念前二日　平安　夜半亭蕪村慎記

降松一乗寺村乃入口にあり此名古し太平記に出たり又傳云平敦盛に幼児あり敦盛西海にて滅し後其室此児を源空に[illegible]終に一條の降松に[illegible]此所之[illegible]洛陽一條に書しけるハ謬なり法然上人叡山より賀茂社へ詣玉ひしに拾ひとりて撫育し玉ひし所とゆきし[illegible]順路[illegible]

比良木社降松乃乾田間にあり中に天王の小祠あり氏神と勧請する所なるらん


東照大権現
佛殿
方丈
墓所

一乗寺村
圓光寺



瑞巌山圓光寺 一乗寺村天王の東二町計にあり禅宗南禅寺派に属し本尊千手観世音運慶の作坐像二尺餘なり

東照宮 當寺東の山上に御鎮坐し給ふ中興三要和尚御勧請し奉る所之御宮殿白木造りにして壮麗之趣ハ名跡志に見へたり

抑當寺ハ野州足利乃學校を慶長六年　台命を蒙て伏見の指月に構し其後相國寺の内にうつし又寛文年中此地に移す中興の祖ハ三要和尚之法嗣於耳峰和禅師に受足利學校乃第九世之又印板植字十萬字朝鮮の書籍二百部　台命によりて御寄附あり又三要和尚に　命し給ひて都鄙乃國学を掌しむ故に洛陽の学校と称し當寺の　御建立ハ　御代の最初にして（今の世に力者大物を牽動をもつて之に三要々々といふも當寺より起るといひ伝ふ）又客殿の庭中山水の奇観絶勝にして真妙なり

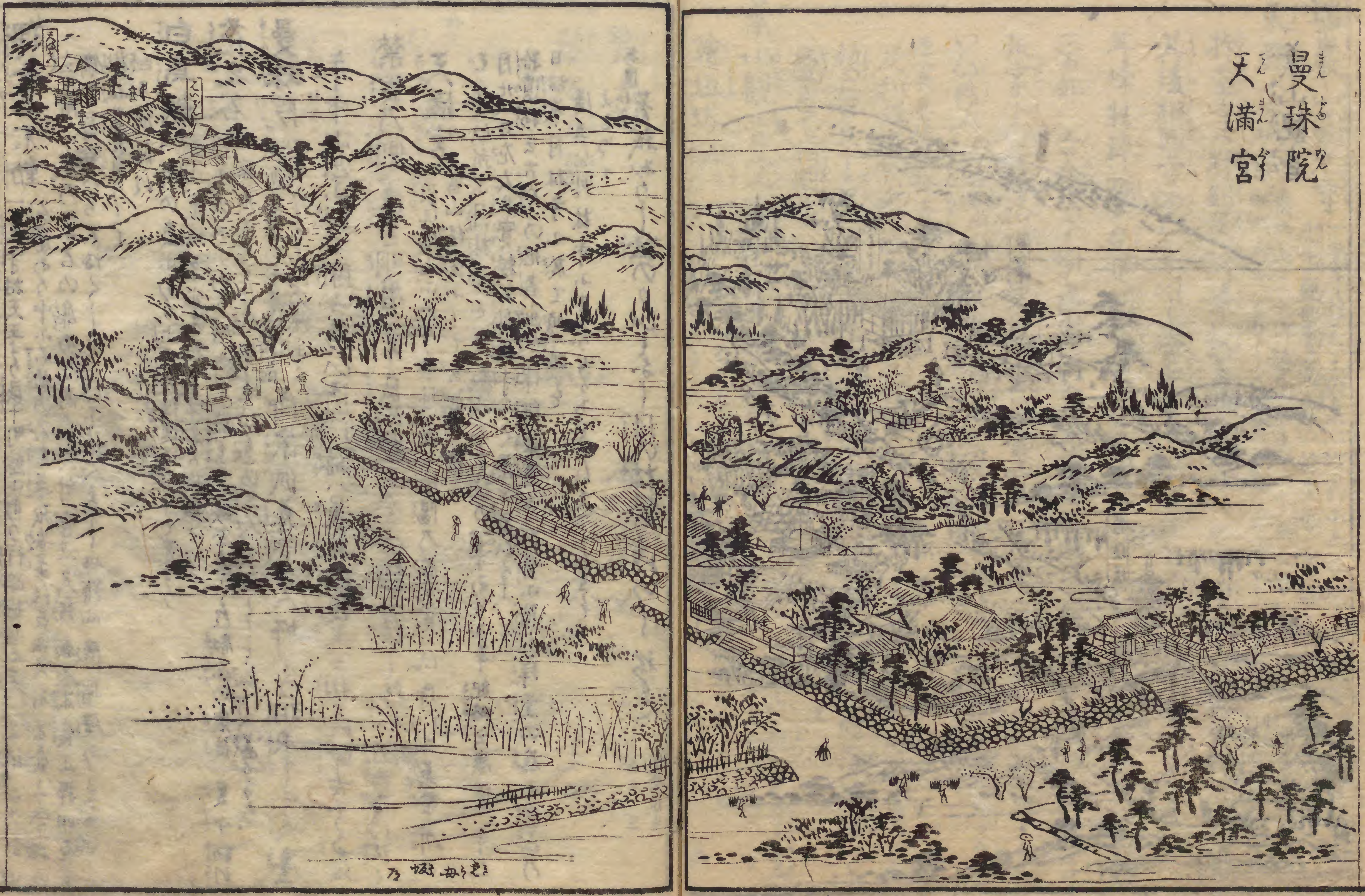
（慶長乱後記林道春云）足利學校ハ参議篁の建立也我國庠序にして書生受業乃旧館なり社領二百五十石あり近代九華老人次に宗銀講誦し大閤の時儒法漸く廢れて相國寺の圓光寺佶長老と云此社を持さると云

菓山観音堂 圓光寺の艮二町ばかりにあり林丘寺御所の御抱所之本尊馬頭観音坐像一尺八寸又傍に茶亭あり臨江亭と額あり

檜垣塔 観音堂のうしろ下にあり之を定る又久其古雅にして名器なり　**坐禅石** 其傍にあり由縁詳ならず

国立公文書館
National Archives of Japan

曼（まん）珠（じゆ）院（ゐん）天（てん）満（まん）宮（ぐう）


天はく
てんじん
きら母坂
乃

狸谷石不動 一乗寺村天王より艮十町餘にあり行路嶮岨也高サ二丈計の石窟あり中に石像の不動尊を安す長さ五尺計木食上人正禅の立る所也窟乃口に石の扉あり高サ四尺計厚サ一尺餘表に木食正禅明厚と鐫る霊験いちしるくして詣人多し此地四隣峭壁にて谷深し樹林蓊鬱として白日を藏す

白鳥越 同所の東にあり上古の往還道にして是より叡山東坂本穴太村へ出る名古路越ともいふ

花之谷 同所の北にあり此所に樒多し故に名とす叡山の衆徒一夏中勤行の樒をこゝより伐出し此地の土人公役として山門へ送るなり

曼殊院 同所東北にあり御宗旨天台にして山門の座主也 御宗派慈覚大師より相承して天慶年中北山に於て開き給ふ御門跡は是算法親王を初とし中古よりは禁裏乃側に遷す明暦二年良尚親王今の地に移し給ふ 竹内御門跡と称す

天満宮 当院後山にあり祭神菅公洛陽乃菅大臣ハ此の御門主兼帯所也

当山絶景にして奇観の地也

むかし此所に月林寺とて叡山三千坊の一寺あり日本紀略云康保四年二月廿八日左大臣實頼公月林寺にゆく花を翫ひ給ふ

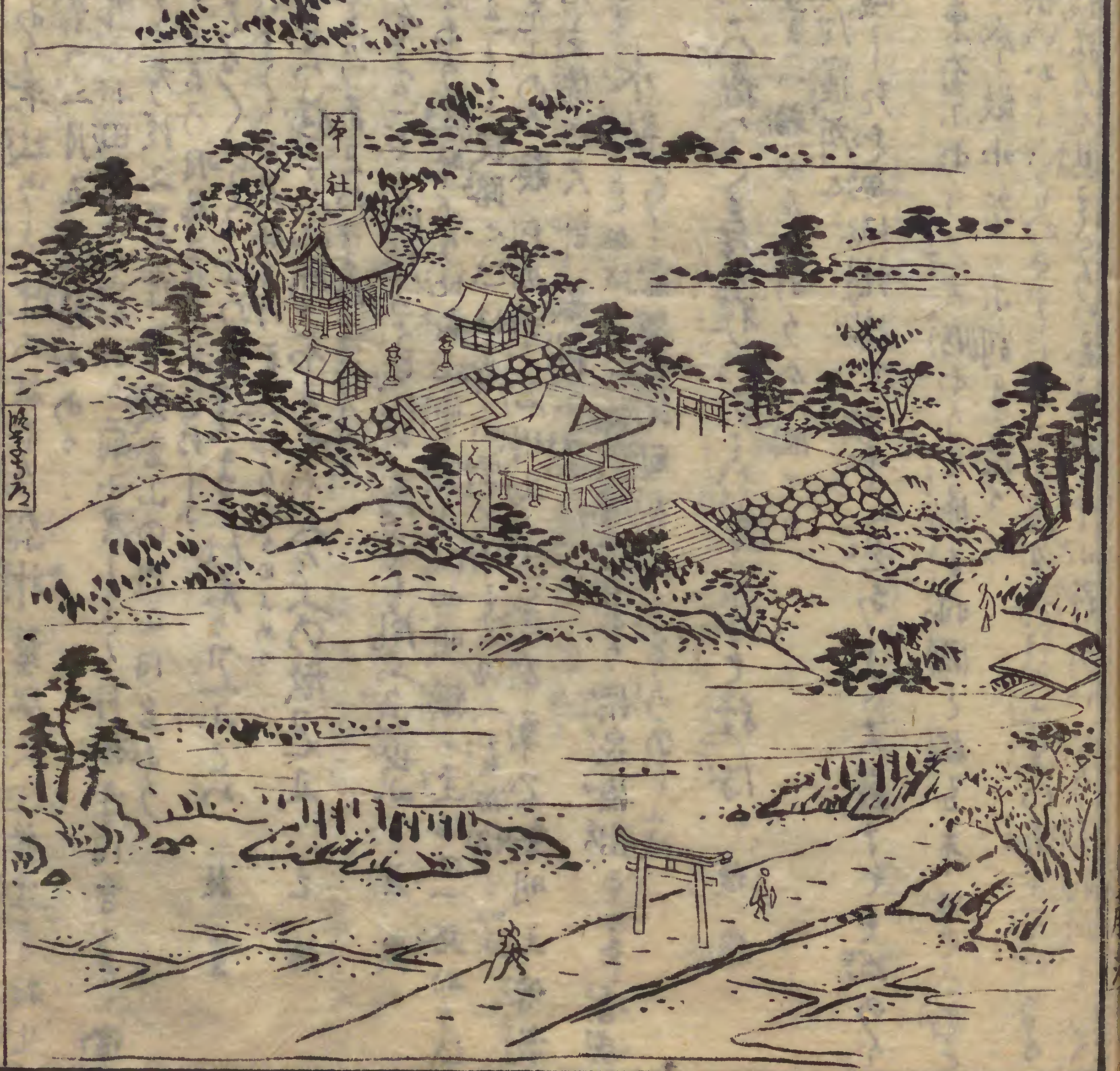
拾遺抄云古今の作者幽仙律師延暦寺別當に補を拝堂の為に登山の日坂本月林寺に於て頓滅す

清慎公月林寺にまかりけるにをくれてまかりてよみ侍る

拾遺
昔我おりし桂のかひもなし月の林はめしにいらねは
文章生 藤原後生

鷺森 本社 鬚咫天皇

拾玉
ひえの山おろしそいたくさえしくれ
雪の色なる鷺の杜より
慈鎮


本社
はいでん
修学寺みち

国立公文書館
National Archives of Japan

鷺杜 曼殊院の西にあり森林にして中に社あり祭神鬚碣天王修学寺村生土神とす例祭ハ三月五日之競馬ある

月輪寺舊跡 同所の小田圃の字にあり前に書しごとく月林寺ハ寺号すこし違いまだ考へず又葛野郡愛宕山の内に同名あり

（小野宮大まうち君乃月輪なる櫻の花見侍しに）
家集 山櫻ちよのためしよりも色咲まさむ君か見んにこそ　能宣

（小野宮おほいまうち君月輪なる花見侍りける日よめる）
新古 誰か為にあすハ残さん山櫻こぼれて匂へけふの形見に　元輔

（清慎公月輪なる乃花見侍りける時読侍りける）
続古 山櫻あくまで色を見つるかな花ちるべくも風ふかぬ世に　兼盛

雲母坂 鷺杜乃北にあり京師より比叡山中堂及び四明嶽に至る一路なり此道嶮岨なりとも捷路なり此坂常に雲を生ずるゆへ雲母坂といふ

不動堂 同所坂の左にあり額雲母寺石川丈山の筆本尊不動明王傳教大師の作立像八尺計叡嶽に属す

不動瀧 本堂の東にあり

水飲 雲母坂にあり路の傍に岩あり清泉湧出て寒暑増減なし靈泉之紀聞あり枕にいふ所のこ　山城

散木 且見意 ひえの山その大嶽ハくまさかるのこへ流まてそ経にける　俊頼

虵池 雲母坂を登れバ路の左にあり今涸て池ともしれず窪所也
太平記云さしも嶮しき雲母坂虵池を弓手に見なして大嶽までぞ坂の不

音羽谷 雲母寺の東南にあり上古瀧ありて即音羽瀧と称す年経て山崩を谿埋れて今微水所々に別れ流る
よりかゝる路え千家のおとしいりさうしとして尾の上程に山里のおかすそけする度まうけ路てそ侍路る其ほとりハ是え坂本小野のハつりより音羽川ちらくて瀧乃音水の聲あまたしにきこゆるなり　下略

古今抄云白川音羽瀧ハ雲母坂の上の西谷の地蔵堂のわきより流る瀧なり
八雲御抄云音羽瀧ハ山城ひえの山の瀧なり

（ひえの山なる音羽の瀧を見てよめる）
古今 おちたきつ瀧の水上年つもり老にけらしな黒き筋なし　忠岑

權中納言敦忠山荘 此辺にありしと見えたり 拾遺集に出

（權中納言敦忠か西坂本の山荘乃瀧の岩にかき付侍りける）
拾遺 音羽川せきいれておとす瀧津せに人の心の見えもするかな　躬恒

林丘寺 雲母坂の下にあり本尊聖観音立像二尺餘初ハ別に大津にあり額後水尾院宸翰

後水尾院宸影 書圖同宮妙法院堯恕法親王の御筆左の脇壇に安置す

賛和哥 法皇の御製
よしや身ハ深山かくれのくち木なれ心の花しにかほりて

開山照山元瑶禅尼公 後水尾院の姫宮之禅法に皈し此地を開く禅刹とし給ふ
峨山稿云林丘寺光子内親王法諱ハ元瑶自ラ法皇賓天之後薙髪爲苾蒭尼純修浄業

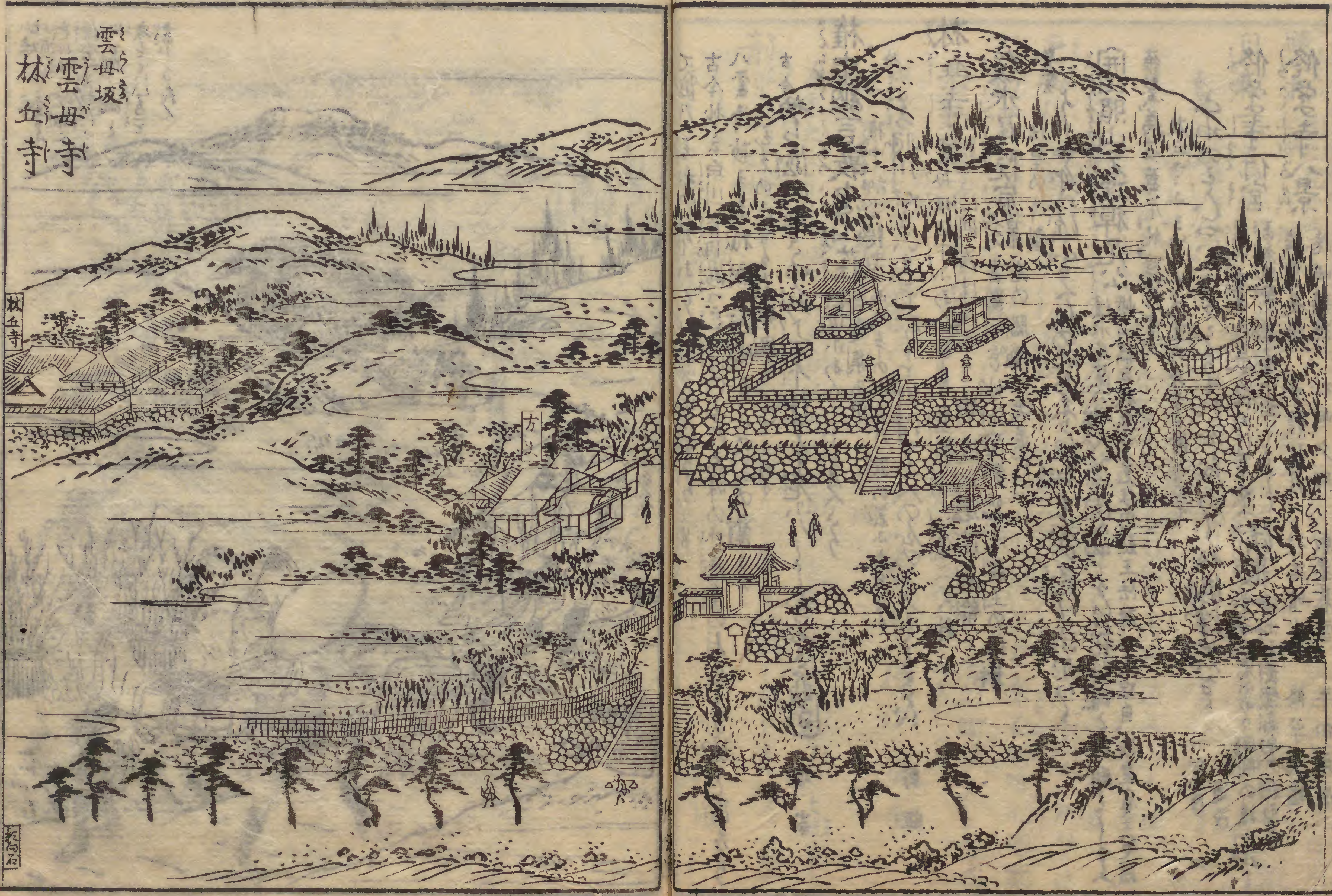
林丘寺にまうでて法堂のおまへなる瀧を見てぞ
山水のおとむやいかゞすゞしからん心ありしぬ瀧津岩ねを　中院通茂

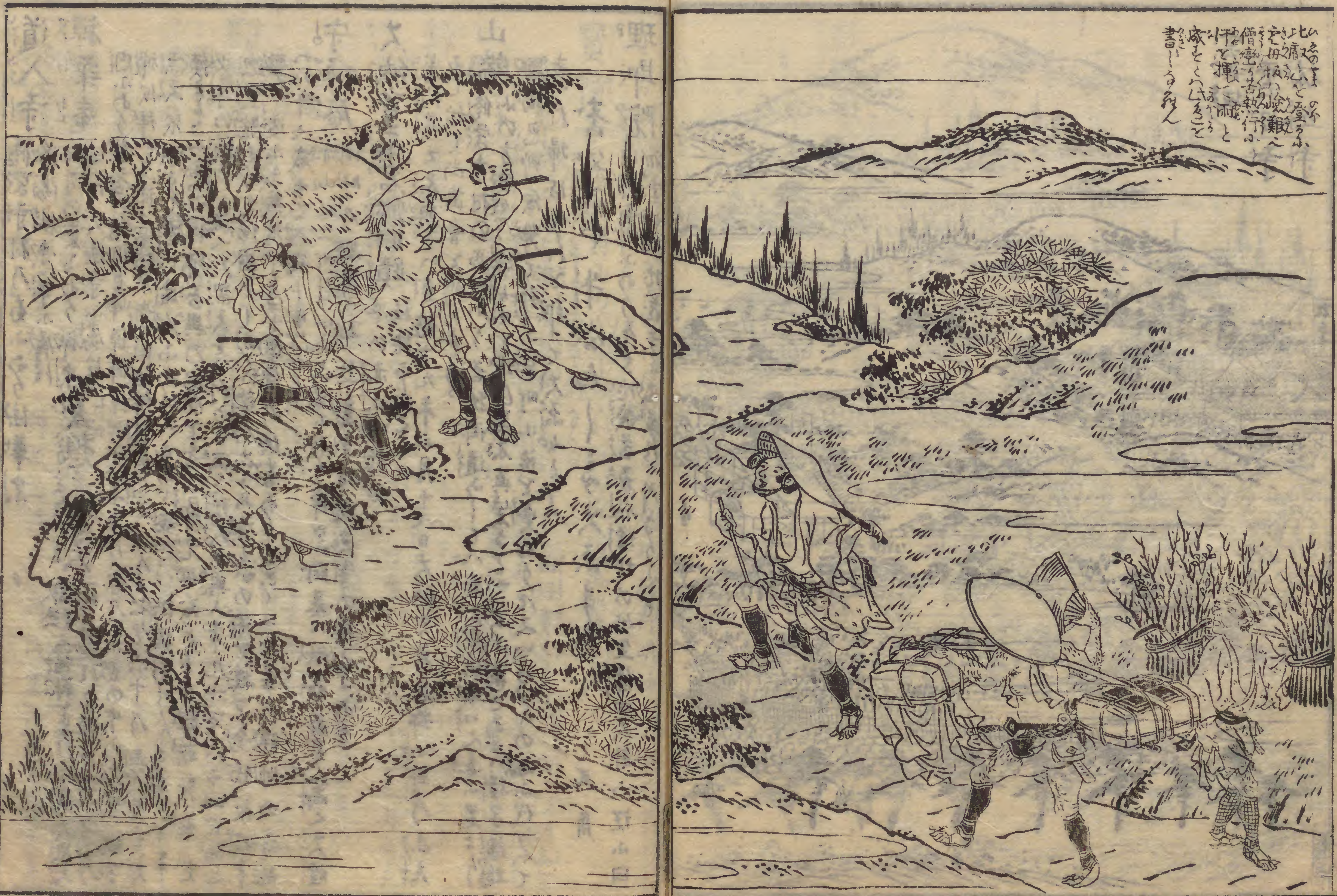
修学寺行宮 後水尾帝御在世の御時行宮とす景気興築し給ひて筆墨に畫しつ

清泉 堂舎の東にあり開闢の後自然と湧出るを黄檗高泉の記あり

修学寺八景
隣雲夜雨　茅檐秋月　村路晴嵐　修学晩鐘
遠岫歸樵　松崎夕照　叡峯暮雪　平田落雁

雲母坂
雲母寺
林丘寺


林丘寺
方丈
本堂
不動坊
ひえいみち
影向石



比叡山を登るに、上廣く雲母坂ハ嶮難こへ僧達ら苦熱の行ハ、汗を揮ひ雨と成をそくへ代ることを書しるし給ん

道入寺 修学寺村の南にあり法華宗洛陽妙覚寺に属す

禅華庵 は所の東にあり紫野大徳寺に屬す禅宗にて**夢想大黒天**（畫景三幅対を安ず又木像大黒天）一躯を安ず長五寸計共に厨子乃内にあり當庵の開祖省峰禅師淳祐十一年二月二日乃夜夢の中に大黒蛭子二神を拜す二神禅師に告て曰汝佛道修行おこたらんとせハ六十乃壽賀して大黒天を画きて普く諸人にあたへなバ無二乃洪福あらんと夢さめぬ年續きて二夜之禅師奇異乃思ひをなし即老母をはじめ親族が驚祝壽の儀式を調へ大黒天を心うつして画き諸人に與へ来凡一万六千四百餘之忽靈驗ありて一國としあまねく諸人尊み敬しかの像を授て金錢を投来夥し遂に土藏を建ことゝす遷佛乃供養ありてこゝに安置す禅師の壽齡ハ八十六歳にして入寂し給ひけり

守禅庵 赤山社二町計北の山脇にあり禅宗開基ハ徹翁義亨和尚之大燈國師乃廟所乃初メハ一乗寺村國老寺の後にあり

大納言年名卿旧蹟 今の赤山明神の社地これ也著聞集云本朝にハ貞觀十九年三月十八日大納言年名卿小野乃山庄にて始て尚歯會を行ハる

山端 修学寺村の西にあり若狭街道にして八瀬大原の喉口也毎に足より擔此の方里々乃賤女馬を追ひ黒木真柴などかしらに戴きあるハ擔子に擔躑躅忍艸など携て都に出町小路を賣ありいろ〳〵の物に代りへておのれ帰るはこれを都て大原女といふ

藪入や牛合點して大原まで　其角

理即院 同所西側にあり本尊地藏菩薩恵心僧都の作坐像四尺計一説に曰初雲母坂地藏堂に安置る所なりとぞ

赤宮 修学寺村の北高野川原村にあり祭神稲荷明神享保年中に平等寺勧進として此所にて大相撲あり

寶幢寺 高野村にあり浄土宗西山派開基旭移上人寛永年中の草創なり

本尊阿弥陀佛 之像長三尺計にして相好貴奇之像也初メは江州志賀里に善光寺といふ寺あり此所乃本尊にして則本田善光ゝ持尊之當寺の熏空上人此本尊を信仰して遂にこゝに移す傳記あり

歸命山蓮華寺 寶幢寺の北にあり天台宗山門に属す初ハ浄土宗にして高野村の中にあり寛文年中賀州乃老臣今枝民部近義再建して今宗と改む

本尊釋迦佛 坐像八九寸計

今枝宗二居士石碑 佛殿の北にあり銘文木下順庵撰すこゝに畧す居士ハ近義の祖父也

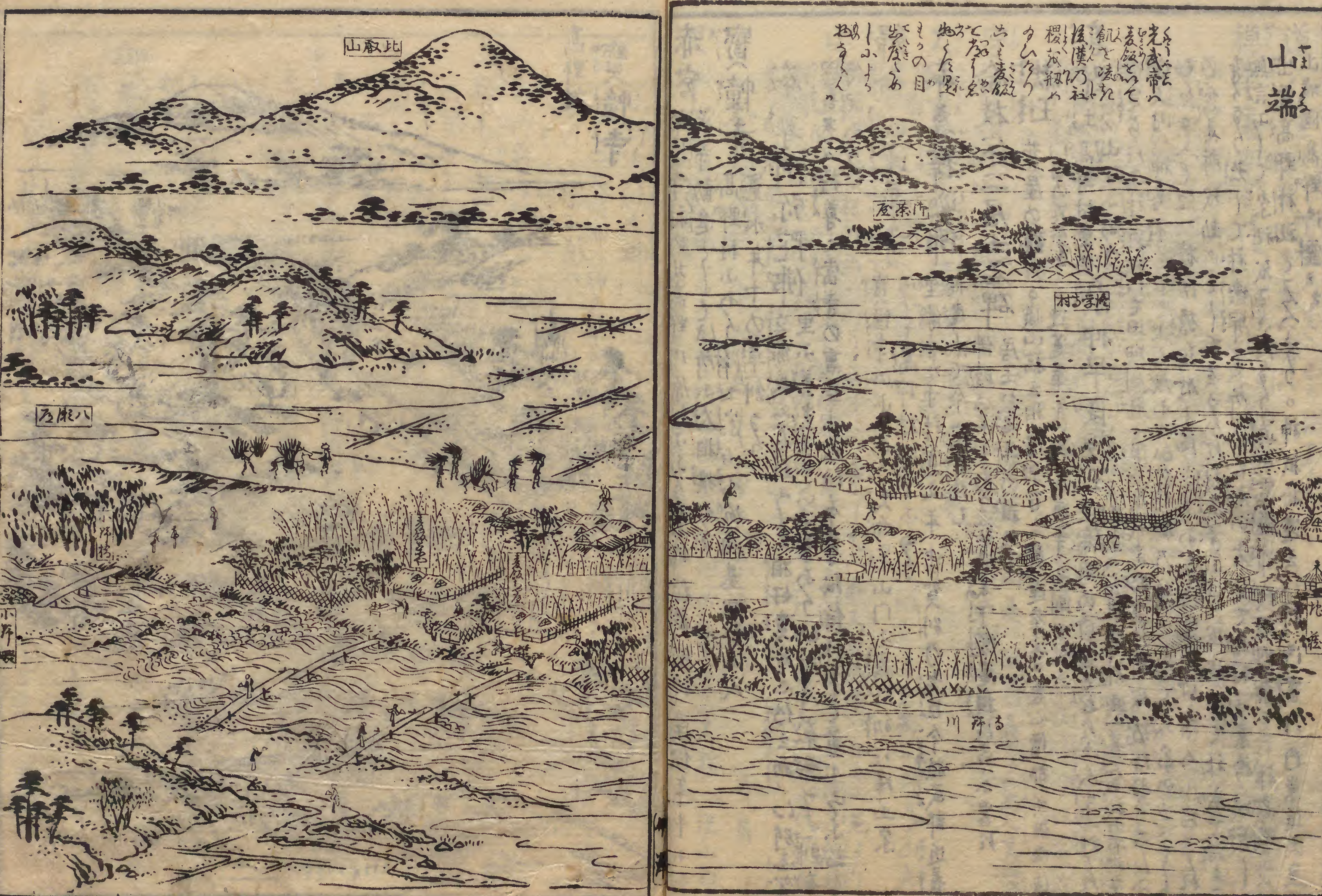
漱玉 井屋の額也門内の右にあり○峨山稿云相傳原有古麓二蓮華寺恵心僧都所供養後遷蓮華寺於大通寺之側云

高野社 高野村東の山下にあり祭神早良親王即高野の御靈と称す土人生土神とす例祭ハ三月五日神輿一基祭祀の御神幸道定られず只神輿に任て田畑川縁に限らず常に路なき所を渡御ありされバ従ふ人ハ神輿をかきて上らんとあれども神輿乃勢ひにしたがひて人家の方へともむかふところハ檐を破り檐を破りなほ本あり御靈の御心に協ハずして忽其所を動かずとしてあまんだ村民手に手にとりて神威を恐れたまふ然して神輿早を所乃古老の者出て烏帽子素袍を着し無言にして祭祀を行ひたまふ真に靈應希代の例祭也神名帳に八出雲高野神社とあり○神祇拾遺云八所御靈乃内崇道天皇山城國高野の御靈云云

国立公文書館
National Archives of Japan

山端（やまはな）

光武帝（くわうぶてい）は麦飯（むぎめし）をもつて飢（うへ）を凌（しの）ぎ後漢（ごかん）乃社稷（しやしよく）お興給ひかゝる例もあり此（こゝ）も麦飯とて都（みやこ）に名（めい）物となれり是（これ）もの乃目（め）出度（たき）ためしなしかるへき哉あらん


比叡山
八瀬庄
御茶屋
修学寺村
小野橋
小野瀬
麦飯ちや屋
地蔵
高野川

高野末社九神（諸社根元記云加茂大明神 山王 貴布祢 いさくの大明神 十二所権現 山神 三輪明神 ウシノコセン 護擁神 已上）

○いさくの大明神ハ神名帳に伊多太神社愛宕郡にあり疑くハ此社か今高野村西乃山際に森あり社ハ絶たり社領田字にあり九月九日これをまつる土人いさく大明神といふ。ウシノゴゼン縁起に云教ノ御前とも云 已上 山城名勝志見へたり

小野毛人墓 小野氏系圖云毛人ハ敏達天皇の曾孫妹子の毛野男之墓ハ高野川の北崇道天皇乃社山上一町計にあり人具所と踏しこれを則響叔うんの地にあり土人これを怪む年来舊し慶長十八年癸丑十二月土人高村政重といふものこれを掘て石槨を得たり内に金牌一枚あり具表裏乃文左のごとし

表文 長二尺計

飛鳥浄御原宮治天下天皇 御朝任太政官兼刑部大卿位大錦上

裏文

小野毛人朝臣之墓 營造歳次丁丑年十二月上旬即葬

川幅 竪ヤ

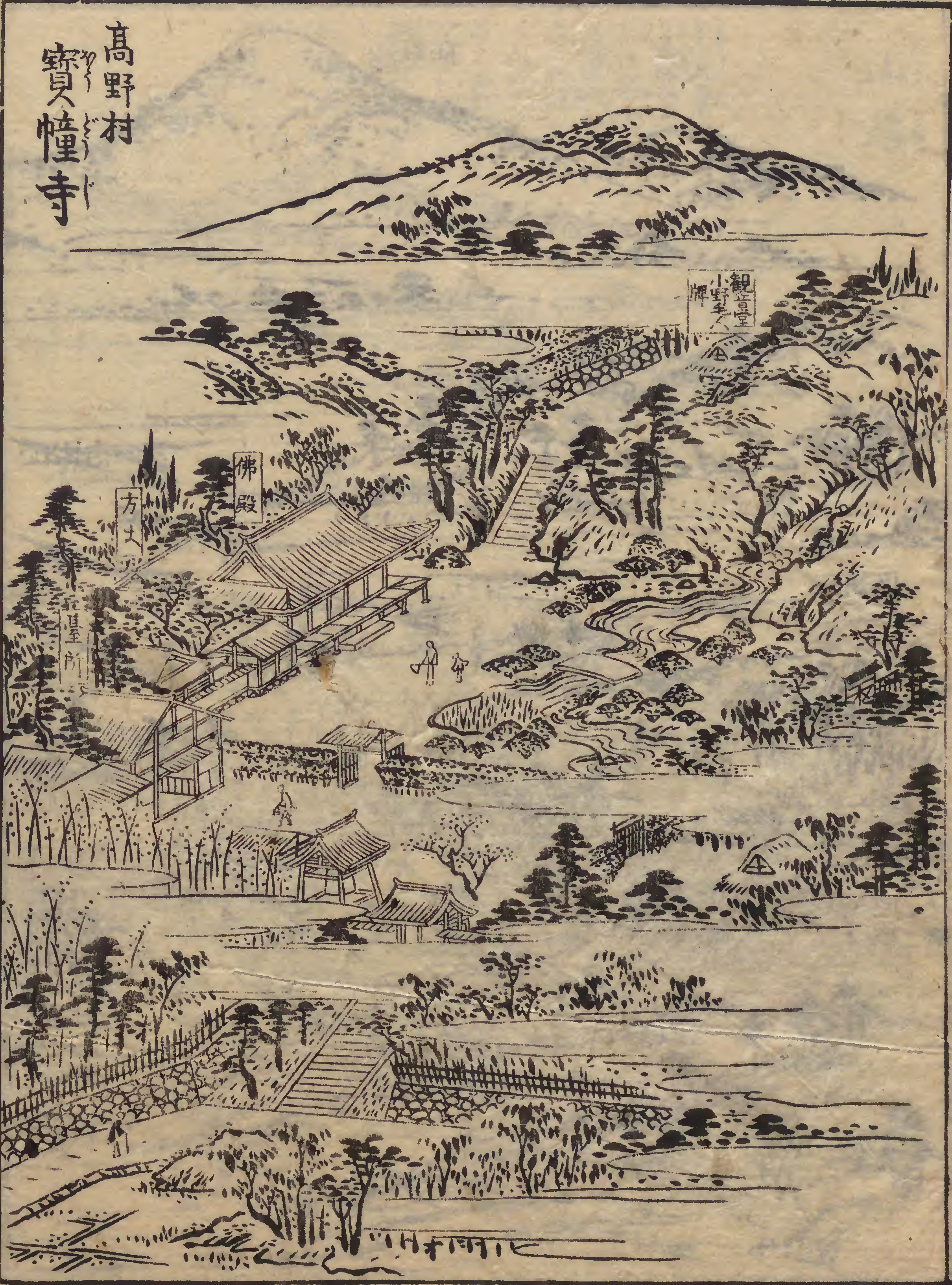
此牌公命によりて人家に安置せしも祟あるによりて村民恐怖して又もとの石槨へ收むといふ今此金牌の模高野村寶幢寺觀音堂に安置せらる

御蔭山 高野村の東にあり。万水一露云みかげ山ハなるせの方にあり御影山と同所といへり

現存六帖 そのかみの御影乃山のなれのこ葉ハ[illegible]　中原師光

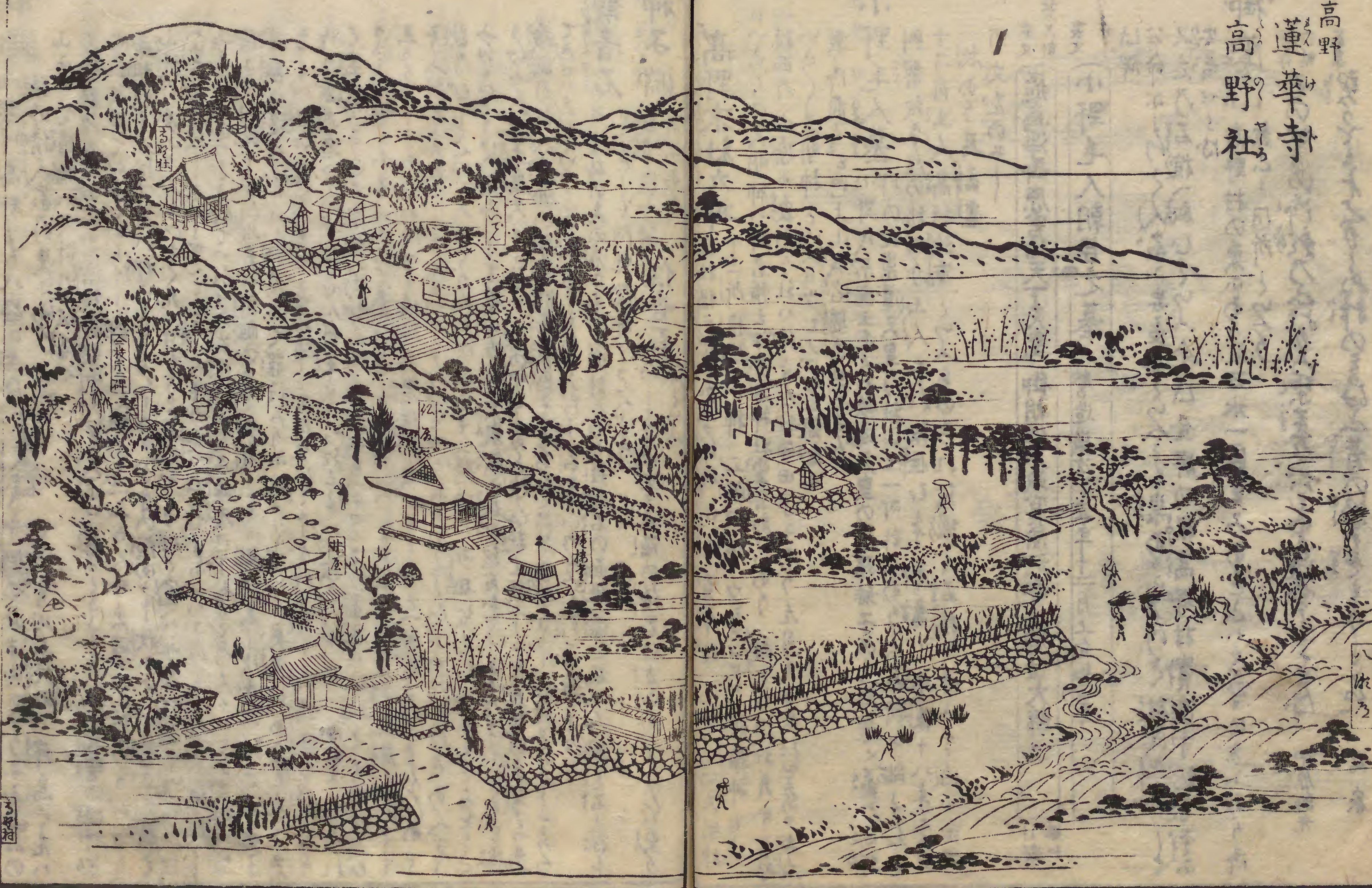
家集 契りをきしそのかみ山の神のミゆけ山昔の跡ぞ今もうれしき　爲家

高野村 寶幢寺



1

高野 蓮華寺 高野社


高野社
えいでん
今枝宗二碑
仏殿
井屋
鐘楼堂
八まん
高野村
八瀬道

甲淵 八瀬川高野より八瀬に至る路の傍人家乃東にあり

千束礒 甲淵の北半町ばかりにあり右の方矢背川に臨んて岸高く左ハ山にして道幅八尺計乃坂路也

平治物語云比叡山には信頼義朝まけて大原へ落らるゝときこえしかば西塔の法師原さしつどひていざやおちうど討とらんやとて二三百人千束礒に待うけたり義朝はよしなき及び都にてともかくもなるべき身の須回か中をふかゝりて落さく山徒乃手にかゝりてむなしく死なんこそ口おしけれと宣へハ斎藤別當申けるハ実盛落しまいらせんとて馬よりおり兜をぬいて手にひつさげ近づきて何といひけるハ右衛門督左馬頭殿已下おもしき乃人々ハこぞ大内六波羅にて討死しけれハのこるハ諸國のかり武者ともが恥をしらず妻子をはごくまん為に本國に落くだるを討とゞめて罪作りに候へ具足をめされん さらバ物の具をまいらせん通して給れと言しかバ実も大将違ひにぞありける葉武者ハうちて何かせん具足をとられよとて実盛うたらこそ衆徒ハ大勢なりけれ摑らへハ小せいまら策を及び投んにさきうひて乗ひろのへくハおそくめる若大衆さかいくも去られべしとて何まる後陣乃老僧も我おらじと一所によりてもみあひ そこ所に実盛よく返しとうけさうたう我あらんとひしめれけれどおそく敵乃勢をえつくろへさうらう所に二十二騎の兵おちあひめされ甲のきころを取てうけかけとりけ入蹴ちらしてとをりけれハ大衆餓に長刀をとしかまへましくくも追くけるゝハ実盛大の中さしとゝのひ敵も敵にまなびぞ義朝の良等に武蔵國乃住人長井の斎藤別當実盛そうしとめんと名乗てあやうきのがれんの難てこそハ大衆の中に弓取ハおしもなしふかりけるひろみゆひてそ帰りける

観音石 千束礒の左の岸下より二間計にあり自然石の面に佛像を鐫土人観音石と称す志かまさしく阿弥陀佛といへり

神子淵 観音石の北半町計にあり

住吉石 はしき側の路の傍右の方にあり 石といふ

矢背川 矢脊の由縁（前編に見ゆ） 源ハ大原の北二里計にして山城近江の堺する山城峠より溪より起りて大原を経て矢脊に至る末ハ高野の里を過て糺乃杜うしろをながれ下鴨の合社の南にて鴨川に落合山川の流ハ至って清らかにして鰷鰭江鮭子なとし岩に鰡岸に添て早瀬を登れを漁せんとて茅薄を布て坐し網を張あるハ小網をうちてこの淵かしこの瀬をかりあるハつるも多かり又高野川にハ日毎に　禁裏調進乃鮎を献ずも此川の名産也（拾芥抄曰垣川ハ左衛門府の撿知にして夏鮎を供ず又侍中群要云垣川供御所毎日鮎魚を進ずと云 垣川ハ矢脊川の一名也）

矢背天神宮 同村の東の山下にあり 祭神菅霊生土神とす例祭ハ四月二日神輿二基一基ハ八王寺の神輿也諺曰菅家御若年の時叡山法性坊阿闍梨尊意乃室に入りて文書を学びすへつる所左遷の後かの地にて薨じ給ひ其神霊尊意の室に来て命しかし人来あり阿闍梨の答へ神霊に継しより其席にある柘榴を取って妻戸に吐かけたまへハ忽猛火と成て燃る其後尊意僧正其の由縁を以てこゝに勧請しまつる

紀貫之家 其小野にありし古今集に見えて 八瀬の北大原の小野なる

古今

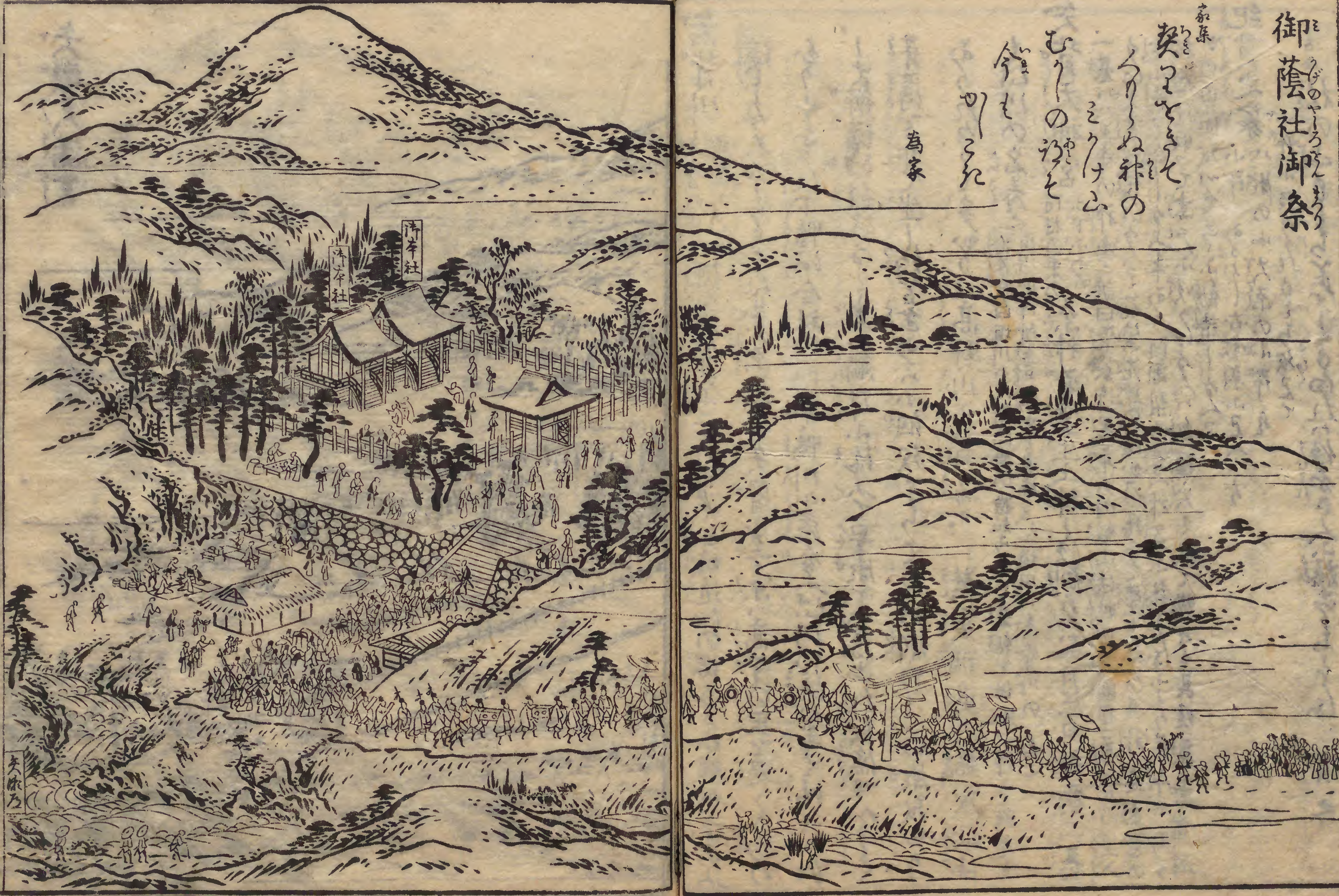
秋の山もみちをぬさと手向れハ住我さへそ旅心ちする　貫之

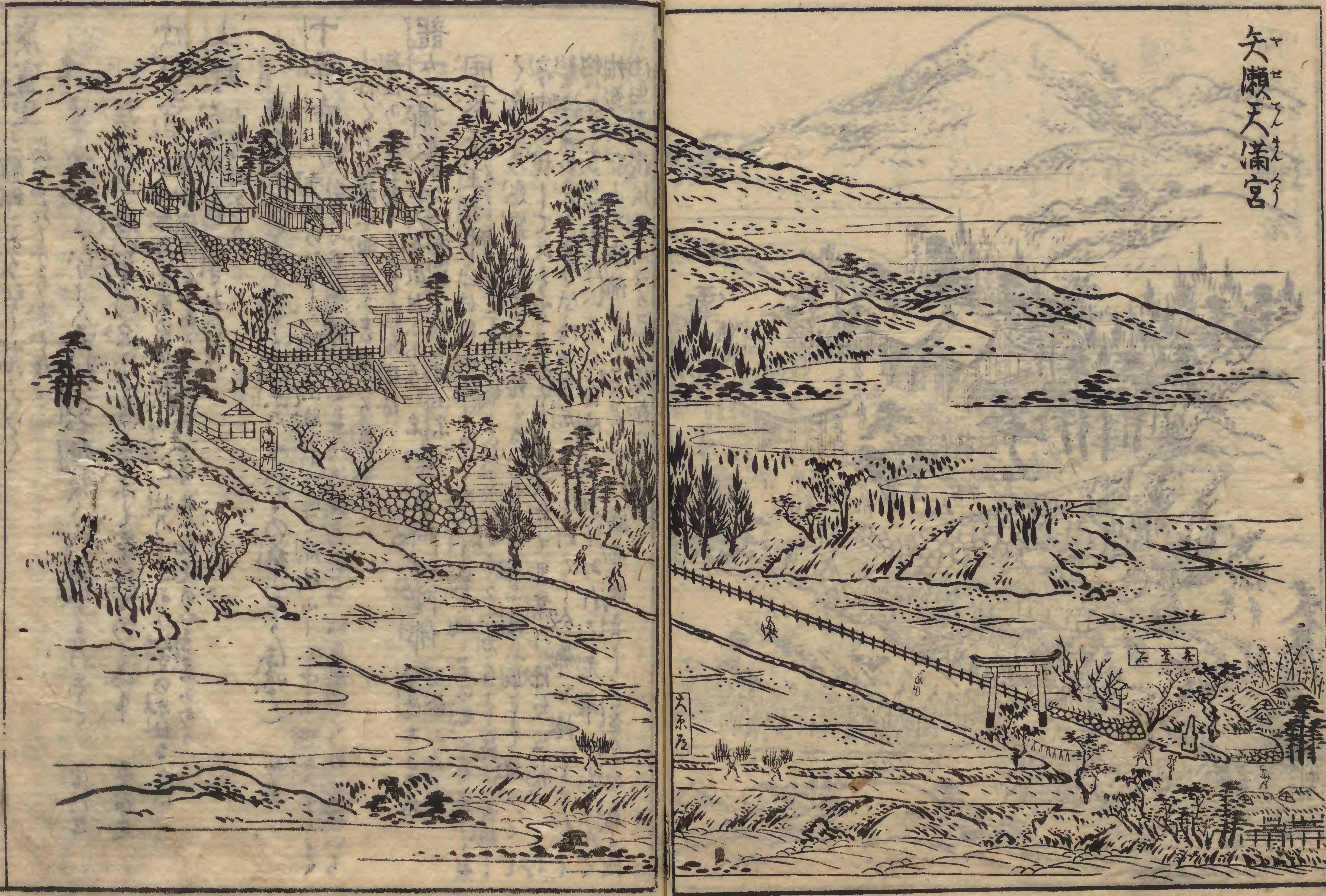
御蔭社御祭（みかげのやしろごさいまつり）

家集

契（ちぎ）りをきて
くりしぬ神（かみ）の
みかけ山
むかしの跡（あと）そ
今（いま）も
かしこれ

爲家




矢瀬天満宮（やせてんまんぐう）
本社
ゑまふ
御旅所
大原道
春墨石

炭竈里 大原郷にありむかしは御山といふ（炭をやきしより名とす）

新續古 よそにくもさひしくは志ら大原や煙たえぬ炭かまのさと　二條院

は 炭かま乃煙の里乃名にたちてよそにもしられとの山下　左京伊定

波那志里社 大原乃里南の境にあり **源太夫社** 杜乃中にあり江文の末社なり此社の北に江文の一鳥居にあり

上野 大原郷の内戸寺村の北 上野村あり

万代 をのつからことそにとふ大原乃うへ野の露にをり侘ぬく　仲実

十禅寺 戸寺村のひがし三町計山腹にあり巡て深林にして中に草堂あり本尊には薬師佛を安置す傳教大師の作立像四尺計霊験いちじるしく殊に眼疾に志るしあり草堂は無住にして村中よりこれを護す

龍女山攝取院 大長瀬村にあり一名紀道心寺といふ浄土宗 本尊阿弥陀佛 聖徳太子の作坐像三尺二寸

開基浄住法師 此法師俗人たりし時ある色欲を好み妻の妹に密通し妻是を嫉妬しくしも制すれども力なし終に苦悩して死す其怨霊たちまち妹にとりつきてまゝ首に纏ひ取そて殺せしとも家中に現して又これを悩しけるに於て罪業の深きを悟りて新髪を除去の身となり此地に蟄居してそれより念佛を懈らざれども蛇は常に首を去らずよく自障懺悔しぬれば老年に及んで蛇首を脱して成佛をとげられし滅罪歓喜して並念佛息絶往生素懐を遂るに及ぶ已上縁起の大意

惟喬親王舊跡 上野村南の方田の畔に御所内といふあり傳云惟喬親王御居乃所なりとぞ又御所あとの正際に一本杉といふ所あり其地に古き石塔あり土人云惟喬親王乃御墓なりと云傳へ

これたかのみこのもとにまかりかよひけるをかしらおろしてをのといふ所に侍りけるに正月にとふらはんとてまかりたりけるにひえの山のふもとなりければ雪いとふかゝりけりしゐてかの室にまかりいたりて

古今 忘れては夢かとぞ思ふ思ひきや雪ふみわけて君を見んとは　業平

雪乃ふる日小野にまかりて侍りしに惟喬乃御子の御跡はいつくにかと人の申侍しに

續草庵 此里はいつくも竹乃園生ふかく雪に昔乃跡もしらまた　頓阿

小野神社 神名帳曰小野神社二座愛宕郡 今詳ならず 小野にありし由續古今集に

敏行朝臣家 亭子院の御時敏行朝臣のとの家に梅の花咲しに召させ給へりける時読侍る

續古 そひまそてふるゝ世は梅乃花雨に昔乃身ならぬ成し　伊勢

勝手社 大原浄蓮華院西山乃麓にあり祭神大和国吉野山勝手明神之良忍上人吉野金峯山に詣し勝手社に法施し奉るに明神童子に化して託宣ありて大原山に至って上人乃弘法を守護せんしと此ゆへにこゝに上人勧請したるとぞ

西方院　上野村の中にあり開基ハ寂忍法師○般若尼の営寺也とあり此尼ハ寂忍の母なり

真光寺　大長瀬村の北にあり本尊釈迦仏行基の作坐像三尺計（開基考へず）

賣炭翁墓　勝林院村極楽院の後山にあり此地ハ則小野山にて哥人の秀詠多し多くハ炭竈を詠じ炭焼を業とする所にハ売炭翁あり此所も其首長の墓なりといふ

（拾玉）小野山も大原山も炭がまの煙ハたえずありけれなりけん　慈鎮

（住吉百首）炭がまも氷室もおなじ小野山ハ火と水とぞ隔なりける　俊成

炭焼やをはら乃清水鼻を見る　其角

小野氷室　延喜式曰山城国愛宕郡小野一所云云

その氷室山のふもとに殊の老君名ある日侍都従鐸か坊なそこにうれしき新よきころによする

（千載）下さゆる氷室の山の遅櫻きえ残りける雪かとぞ見る　源仲正

（拾玉）としさそふ小野の山への氷室こそ涼しさハ夜もあかぬなれか　慈鎮

萱穂橋　大原梶井御所の北にあり此橋紀州高野山乃御廟橋奥州松嶋五大堂乃渡橋に等しくして邪悪不善の者ハわたる事を得ざるとぞ土人曰毎歳一二人あり皆わたる所なりとぞ

来迎橋　萱穂橋乃北にあり截石の橋にして擬宝珠あり郷中の葬送此橋上に舁来つて本尊阿弥陀仏に回向なさしむ

後鳥羽院陵　帝陵記曰北大原勝林院塔頭實光院にあり火葬所ハ隠岐國備前海部海士村源福寺にあり小祠を建つ

獅子石　融通寺堂の右にあり良忍上人ここにて迦陵頻の梵法を修せられし時此石獅子と化して踊りたり聲を発せしとぞ（釈書出）

羅漢橋　来迎院乃前の石橋を云ふ伝へいふ此橋上に十六羅漢現じ給ひしとぞ

法然上人腰掛石　同所の西にあり伝へ云上人勝林院本尊に参詣乃時をかゝりし時此石上にやすらひ給ふとなん

姫祠　勝林院村往還の西にあり（例祭三月五日）

大津杜　草生村北二町ばかりの野中にあり

良暹山荘　（舊地詳ならず）大原にあるよし袋草子にみえたり

清輔袋草子曰人々大原に遊行をおのおの騎馬しけるに俊頼朝臣ここにて俄に下馬しけり人々驚てこれを問しかバ答て曰此所ハ良暹の旧房なりいかでか下馬せざらんやと人々これをききて大に感歎し皆下馬して行きたる件の良暹房乃山荘今に於てありといひてある僧語つて曰良暹法師が障子に書たる哥いまだ消えずとぞ

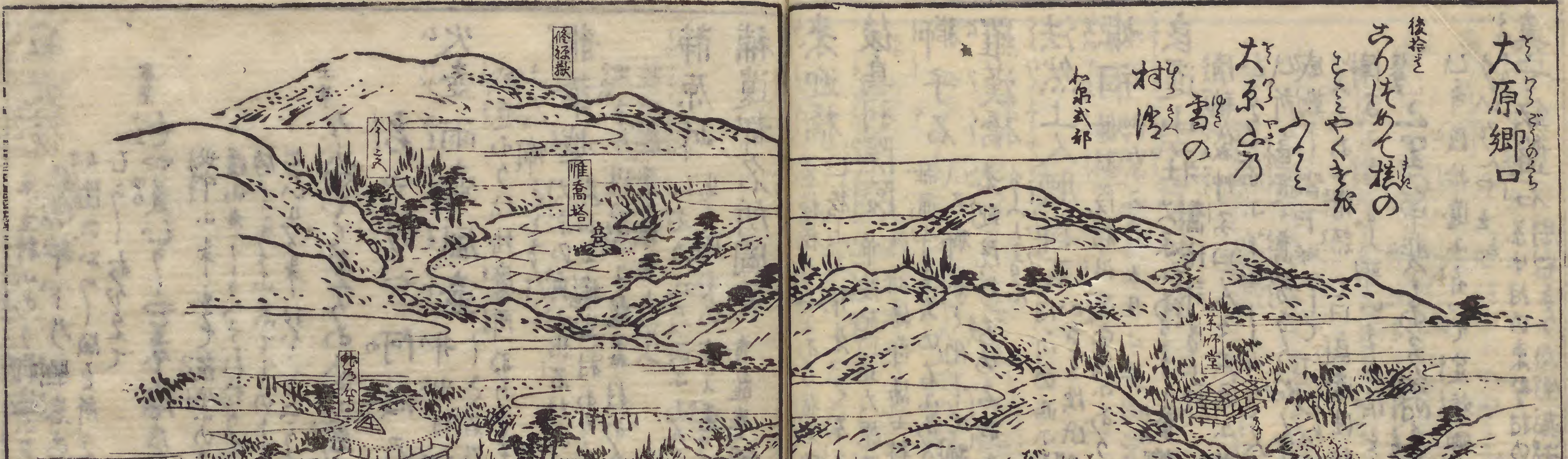
（後拾遺）山里の甲斐もあるかな時鳥ことしそまたで初音きゝつる　良暹

此哥後拾遺に有つて定頼卿の和哥に末同じきをえらぶまじきか先に詠じたりけんや云云

真守鉄盤石　草生村の東野村の西山の方山下にあり居宅なり大原真守といふ名鍛冶ありし也伝云此所鍛冶真守が

大原郷口

後拾遺
ありはめて稀の
とことやくきなれ
みくと
大原山乃
雪の
村消
和泉式部


修採嶽
今之文
惟喬塔
せろうの里
大長瀬村
薬師堂
薬師乃
戸寺村

国立公文書館
National Archives of Japan

寂光院 草生村にあり前縁にしたがへり此地時鳥乃名所にして卯月の頃都下乃騒客こゝに宿して是を賞す女院のおくし所を所え騒からぬくあはれに

むかしおもひえて

家集　今や夢むかしや夢とまよはれていかにおもへどうつゝとぞなき　右京大夫

世中に来しこそ筑紫のくもにかくされて行らるが後に又しくされ行て遂にハ院大原にこもりおはしまし侍しさまに系て此の中きかふにつけてもさびしくそひ出る年ねかくてはまうりすくあかえ侍られば

玉葉　今はかくてあくかれにも悲しきは此世なりてそのかみのあはれ成けり　僧正全真

霜やけや阿波乃内侍のなれの果　鷺水

火壺　雨壺　風壺 井出村江文社の後山にあり山間に自然乃窟三ツありしく石乃蓋あり旱の時雨壺に向ひて雨を禱るに感應あり此地魔所なりとて土人怖れとをざく

龍華越 大原の奥に出石村乃北にあり山城峠ともいふ是山城近江の堺也其下に掾生村ありて溪川を帯ぶ是比叡ヶ嶽と比良嶽との界なり川の下に龍華村あり掾生村もむかしハ龍花の中なりし故に龍華掾生といふ

静原峠 江文の社乃西にあり此坂を越て長谷岩倉に至るそれより鞍馬に出る戌亥の方に當つて凡一里斗也

補遺都名所圖會　青龍巻終

東叡院

国立公文書館
National Archives of Japan